

JobCenter

R13.2

<UCXSingle ジョブ利用ガイド>

-
- Windows XP, Windows Vista, Windows 7, Windows 8, Windows Server 2003, Windows Server 2008, Windows Server 2012 および Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - UNIX は、The Open Groupが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
 - Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。
 - SAP, ERP, BI は、SAP AG の商標もしくは登録商標です。
 - HP-UX は、米国 Hewlett-Packard 社の商標です。
 - AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。
 - NQSは、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。
 - Oracle、Oracle Clusterware及びJavaは、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
 - Red Hat は、Red Hat,Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - その他、本書に記載されているソフトウェア製品およびハードウェア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、R、TM、cの記号は省略しています。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェア)は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取りください。許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談ください。

はじめに

本書では、UCXSingle ジョブによる SVF 連携機能の概要等について説明しています。なお、本書内に記載されている画面例と実際の画面とは異なることがありますので注意してください。

本書の内容は将来、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

1. 読み方

JobCenter を新規にインストール、またはバージョンアップされる場合

→ インストールガイドを参照してください。

JobCenter を初めて利用される場合

→ クイックスタート編を目次に従いお読みください。

JobCenter の基本的な操作方法を理解したい場合

→ 基本操作ガイドを目次に従いお読みください。

環境の構築や各種機能の設定を理解したい場合

→ 環境構築ガイドを参照してください。

その他機能についてお知りになりたい場合

→ 関連マニュアルの内容をお読みいただき、目的のマニュアルを参照してください。

2. 凡例

本書内での凡例を紹介します。

		気をつけて読んでいただきたい内容です。
		本文中の補足説明
注		本文中につけた注の説明
—		UNIX版のインストール画面の説明では、__部分(下線部分)はキーボードからの入力を示します。

3. 関連マニュアル

JobCenter に関するマニュアルです。JobCenter メディア内に格納されています。

最新のマニュアルは、JobCenter 製品サイトのダウンロードのページを参照してください。

<http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/JobCenter/download.html>

資料名	概要
JobCenter インストールガイド	JobCenterを新規にインストール、またはバージョンアップする場合の方法について説明しています。
JobCenter クイックスタート編	初めてJobCenterをお使いになる方を対象に、JobCenterの基本的な機能と一通りの操作を説明しています。
JobCenter 基本操作ガイド	JobCenterの基本機能、操作方法について説明しています。
JobCenter 環境構築ガイド	JobCenterを利用するために必要な環境の構築、環境の移行や他製品との連携などの各種設定方法について説明しています。
JobCenter NQS機能利用の手引き	JobCenterの基盤であるNQSの機能をJobCenterから利用する方法について説明しています。
JobCenter 操作・実行ログ機能利用の手引き	JobCenter CL/Winからの操作ログ、ジョブネットワーク実行ログ取得機能および設定方法について説明しています。
JobCenter コマンドリファレンス	GUIと同様にジョブネットワークの投入、実行状況の参照などをコマンドラインから行うために、JobCenterで用意されているコマンドについて説明しています。
JobCenter クラスタ機能利用の手引き	クラスタシステムでJobCenterを操作するための連携方法について説明しています。
JobCenter Helper機能利用の手引き	Excelを用いたJobCenterの効率的な運用をサポートするJobCenter Definition Helper (定義情報のメンテナンス)、JobCenter Report Helper (帳票作成)、JobCenter Analysis Helper (性能分析)の3つの機能について説明しています。
JobCenter SAP機能利用の手引き	JobCenterをSAPと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter UCXSingleジョブ利用ガイド	JobCenterをUCXSingleと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter WebOTX Batch Server連携機能利用の手引き	JobCenterをWebOTX Batch Serverと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter Web機能利用の手引き	Webブラウザ上でジョブ監視を行うことができるJobCenter CL/Webについて説明しています。
JobCenter テキスト定義機能の利用手引き	ジョブネットワークやスケジュール、カレンダー、カスタムジョブテンプレートを、テキストファイルを使って定義する方法を説明しています。

JobCenter クラスタ環境でのバージョンアップ・パッチ適用ガイド	クラスタ環境で運用しているJobCenterのアップデート、パッチ適用手順を説明しています。
JobCenter R13.2 リリースメモ	バージョン固有の情報を記載しています。

4. 改版履歴

版数	変更日付	項目	形式	変更内容
1	2013/09/30	新規作成	－	第1版
2	2014/01/17	版改訂	－	R13.2.1リリースに伴い版改訂

目次

はじめに	iii
1. 読み方	iv
2. 凡例	v
3. 関連マニュアル	vi
4. 改版履歴	viii
1. UCXSingleジョブの概要	1
1.1. ライセンスについて	2
1.2. UCXSingleジョブの動作環境	3
1.2.1. 対応OS	3
1.2.2. システム構成	3
1.3. UCXSingleジョブの機能概要	6
1.3.1. JobCenterにより管理するメリット	6
1.3.2. UCXSingleジョブの機能	6
2. UCXSingleジョブを使用する	7
2.1. UCXSingleコマンドの実行環境をセットアップする	8
2.2. UCXSingleジョブの実行環境をセットアップする	9
2.2.1. バージョンを確認する	9
2.2.2. UCXSingleコマンドを格納する	9
2.2.3. UCXSingle実行環境設定ファイル (ucxsconf.f) を格納する	9
2.2.4. JobCenter MGを起動する	10
2.3. UCXSingleジョブを作成、実行、監視、制御、確認する	11
2.3.1. UCXSingleジョブを作成する	11
2.3.2. UCXSingleジョブを実行する	13
2.3.3. UCXSingleジョブトラッカを監視する	13
2.3.4. UCXSingleジョブトラッカを操作する	13
2.3.5. UCXSingleジョブの実行結果を確認する	14
3. UCXSingleジョブのパラメータを設定する	16
3.1. UCXSingleコマンドオプションとの対応一覧	17
3.2. UCXSingleジョブの実行条件 (パラメータ) を設定する	19
3.2.1. [基本設定] タブ	19
3.2.2. [データファイル詳細] タブ	21
3.2.3. [結果] タブ	22
3.2.4. [クリティカルポイント警告] タブ	23
3.2.5. [その他] タブ	25
4. UCXSingleジョブトラッカアイコンを操作する	28
4.1. UCXSingleジョブトラッカアイコンの状態	29
4.2. UCXSingleジョブトラッカアイコンの操作	30
4.3. UCXSingleジョブトラッカウィンドウの詳細情報を参照する	32
5. UCXSingleジョブの関連機能	34
5.1. 部品オブジェクトの設定について	35
5.1.1. UCXSingleジョブの後ろに条件分岐部品を配置する	35
5.1.2. コンティニュー部品の飛び先部品にUCXSingleジョブを設定する	35
5.1.3. ジョブ待ち合わせでUCXSingleジョブを待ち合わせする	36
5.2. 部品検索でUCXSingleジョブのトラッカを検索する	38
5.3. UCXSingleジョブのデフォルトパラメータを設定する	39
5.4. エラー発生時のメール送信機能について	40
5.4.1. 件名、本文に使用可能なマクロについて	40
6. UCXSingleジョブの注意事項・制限事項	41
6.1. 注意事項	42
6.2. 制限事項	43
7. UCXSingleジョブのトラブルシューティング	44
7.1. トラブルシューティングQ&A	45

目次

1.1. JobCenterの実行環境の構成例1	4
1.2. JobCenterの実行環境の構成例2	4
2.1. UCXSingleジョブアイコンの追加	11
2.2. 新規UCXSingleジョブ名の設定例	12
2.3. UCXSingleジョブパラメータの設定ダイアログの画面例	12
2.4. 即時投入実行後のジョブネットワークトラッカウィンドウの例	13
2.5. 実行中のUCXSingleジョブトラッカの操作画面例	14
2.6. [詳細情報] 選択画面例	14
2.7. 詳細情報表示例	15
3.1. [UCXSingleジョブパラメータの設定] ダイアログ画面例	19
3.2. データファイル名設定時の帳票データ転送イメージ1	20
3.3. データファイル名設定時の帳票データ転送イメージ2	20
3.4. [UCXSingleジョブパラメータの設定] - [データファイル詳細] 画面例	21
3.5. [UCXSingleジョブパラメータの設定] - [結果] 画面例	22
3.6. [UCXSingleジョブパラメータの設定] - [クリティカルポイント警告] 画面例	24
3.7. [UCXSingleジョブパラメータの設定] - [その他] 画面例	26
4.1. UCXsingleジョブトラッカアイコン操作画面例	30
4.2. [UCXSingleジョブトラッカ] ウィンドウ画面例	32
5.1. 条件分岐の画面例	35
5.2. コンティニュー部品の設定画面例	36
5.3. ジョブ待ち合わせの設定画面例	37
5.4. [部品検索画面] ウィンドウ画面例	38
5.5. [UCXSingleジョブのデフォルトパラメータ] のメニュー選択画面例	39

表目次

2.1. 設定ファイルucxsconf.f の設定項目	10
3.1. パラメータの設定項目とUCXSingleコマンドオプションの対応一覧	17
3.2. JobCenterがサポートしていないUCXSingleコマンドオプションの一覧	17
4.1. UCXSingleジョブトラックのアイコン、ラベル、状況、トラックの色の関係	29
4.2. [UCXSingleジョブトラック] ウィンドウのタブ一覧	32
4.3. [詳細情報] タブの項目一覧	32

第1章 UCXSingleジョブの概要

UCXSingleジョブとは、ウイングアーク テクノロジーズ株式会社が提供しているUniversal Connect/Xの外部コマンドであるUCXSingleの命令として実行される単位です。Universal Connect/Xで設定されている動作設定名(JOBID)等をUCXSingleジョブのパラメータとして指定し、JobCenterから呼び出すことによって、任意のタイミングで帳票の出力を行うことが可能になります。

1.1. ライセンスについて

UCXSingleジョブの機能は、JobCenterのオプションとして別途有償にて提供されているものです。本機能を利用したい場合は、別途ライセンスの購入が必要となります。

本オプションのマニュアルはPDF形式でJobCenter のWebサイトより提供されています。

1.2. UCXSingleジョブの動作環境

1.2.1. 対応OS

JobCenterのUCXSingleジョブの機能とOSの対応を紹介します。

■JobCenter CL/Win側の対応OS

JobCenter CL/Winが対応している全てのOSにおいて、UCXSingleジョブのビューア機能を提供します。

■JobCenter MG (UCXSingleジョブの定義、監視、制御機能) の対応OS

本マニュアルのバージョンのJobCenterがサポートするHP-UX(IPF)および、Windowsのプラットフォームで、UCXSingleジョブの定義、監視、制御機能を提供します。つまり、ジョブネットワーク定義が配置されているマシンが、本マニュアルのバージョンのJobCenterがサポートするHP-UX(IPF)もしくは、Windowsである必要があります。

なお、Linux、Solaris、AIXのプラットフォームについては、UCXSingleジョブの定義、監視、制御機能は未サポートとなります。

■JobCenter SV (UCXSingleジョブの実行) の対応OS

UCXSingleジョブをJobCenter MGからJobCenter SVに転送して実行することができます。

UCXSingleジョブの実行機能を提供するプラットフォームは、本マニュアルのバージョンのJobCenterがサポートするプラットフォームであり、なおかつUniversal Connect/Xが提供するUCXSingleコマンドがサポートするプラットフォームである必要があります。

1.2.2. システム構成

1.2.2.1. 構成例1

帳票データ作成サーバ (データファイルを生成するアプリケーションサーバ) にJobCenter SVを導入する構成の場合、実行環境の構成例は、[図1.1「JobCenterの実行環境の構成例1」](#)のようになります。

なお、JobCenter SV上のデータファイルはファイル待ち合わせ部品にて待ち合わせが可能です。

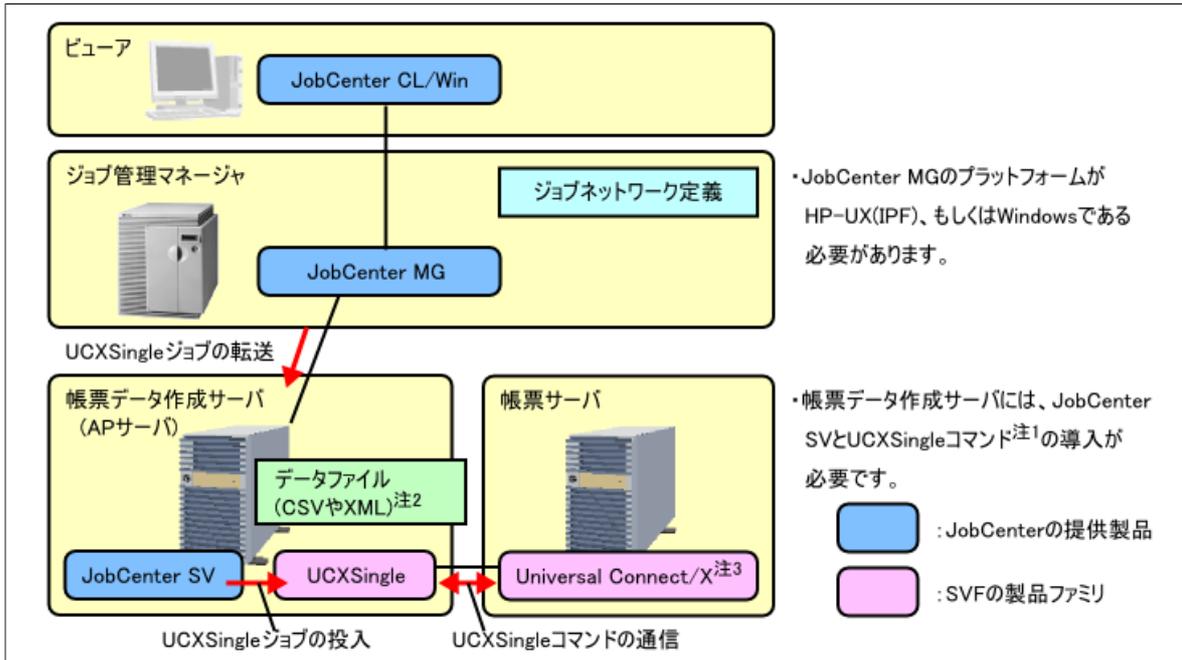


図1.1 JobCenterの実行環境の構成例1

1.2.2.2. 構成例2

ジョブ管理マネージャが帳票データ作成サーバを兼ねる構成の場合、実行環境の構成例は、[図1.2「JobCenterの実行環境の構成例2」](#)のようになります。なお、ジョブ管理マネージャや帳票データ作成サーバの負荷が高い場合、この構成は推奨されません。ジョブ管理マネージャ上にはJobCenter SVのライセンスが必要です。

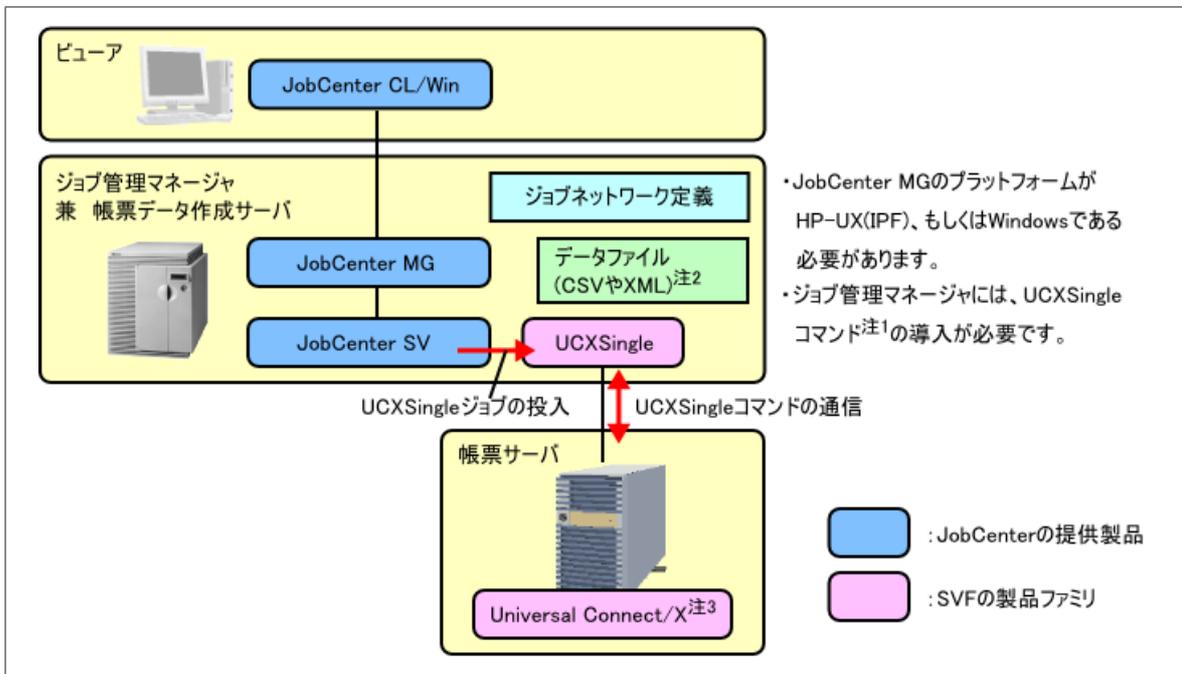


図1.2 JobCenterの実行環境の構成例2



注1 UCXSingleジョブが対応しているUCXSingleコマンドは、C版のみです。Java版には対応しておりません。

- 注2 図1.1「JobCenterの実行環境の構成例1」や図1.2「JobCenterの実行環境の構成例2」は、データファイル（CSVやXMLといった帳票データ）をUCXSingleによって帳票サーバに送信する構成例です。帳票サーバと帳票データ作成サーバが同一ホストであるなど、データファイルが事前に帳票サーバ側に配置されている場合、データファイルを送信する必要はありません。
- 注3 Universal Connect/XIはUCXSingleの要求を受け付けますが、PDF出力やプリンタ出力にはSVF Java PRODUCTSが必要です。SVF側の製品構成については、別途、SVF担当者までご確認ください。



帳票として作成したPDFファイルをUCXSingleジョブの設定によりダウンロードすることができます。この場合、PDFファイルがダウンロードされるホストは、UCXSingleのモジュールが配置されるホストになります。

1.3. UCXSingleジョブの機能概要

1.3.1. JobCenterにより管理するメリット

UCXSingleの処理をJobCenterにより管理するメリットは、次のとおりです。

■構築、システム変更時のメリット

ジョブネットワーク上にUCXSingleの処理をジョブとして配置できるので、複雑な業務処理とUCXSingleの処理をJobCenterのビューアを用いて視覚的に構築することができます。

UCXSingleコマンドをUCXSingleジョブのパラメータとして設定でき、必須項目や実行不可能なコマンドオプションの組み合わせをJobCenterがチェックしてユーザに知らせます。

■運用、保守のメリット

UCXSingleの処理の保留やスキップ、即時実行や投入スケジュールの変更、パラメータの設定内容の一時変更などがJobCenterにより柔軟に行うことができます。

UCXSingleジョブの専用キューに対してUCXSingleジョブの同時実行数が設定できます。一度に大量のUCXSingleコマンドが起動されることを防ぎ、リソースの適正な利用が見込めます。

JobCenter再起動時のUCXSingleジョブのリスタートが設定できます。クラスタ環境などでのジョブマイグレーションが可能です。^{注1}

■監視、監査上のメリット

UCXSingleの処理をJobCenterから実行することによって、関連する処理を含め、トラッカ情報やログとして実行履歴、および操作履歴を管理することができます。



注1 UCXSingleコマンド（およびUCXSingleジョブ）にはUCXサーバの帳票出力の結果が正常か異常かを別途問い合わせる機能はありません。UCXサーバ側にて帳票出力の処理を正常に完了し、UCXSingleコマンドが結果を受け取る前にサーバがダウンした場合、UCXSingleジョブのリスタートには帳票の二重出力の可能性がります。システム構築の際は上記を十分考慮の上、機能をご利用ください。

1.3.2. UCXSingleジョブの機能

UCXSingleジョブでは、帳票の出力について以下のような処理が可能です。機能の詳細については、[3章「UCXSingleジョブのパラメータを設定する」](#)を参照してください。

■JobCenter SV上のデータファイル（帳票の入力データ）をUniversal Connect/Xのサーバ（UCXサーバ）に転送し、帳票の出力を行うことができます。

■出力された帳票をUCXサーバからJobCenter SV上にダウンロードすることができます。

■出力した帳票のページ数、および、RDE (Report Director Enterprise) のサーバにスプールされた文書管理番号をJobCenterのトラッカ情報から確認することができます。

第2章 UCXSingleジョブを使用する

UCXSingleジョブの設定方法、および実行方法について説明します。

なお、UCXSingleコマンドの使い方、UCXサーバの機能については、ウイングアークテクノロジー提供のマニュアルを参照してください。

2.1. UCXSingleコマンドの実行環境をセットアップする

JobCenterから利用するUCXSingleコマンドの実行環境について、事前に以下の事項について必ず確認を行ってください。

作業に際しては、ウイングアークテクノロジーズ株式会社提供のマニュアル類を参照してください。



事前確認事項

- 帳票サーバとなるマシンへのUniversal Connect/Xのインストール、セットアップ、および動作確認が完了している。
- Universal Connect/Xの外部コマンドであるUCXSingleコマンド（C版）のバイナリモジュールがUCXSingleジョブを実行するJobCenter SVマシン上に用意できている。
- UCXSingleジョブが実行されるJobCenter SVがインストールされた（もしくは、インストールする予定の）マシン（UCXクライアントマシン）上の端末から、UCXサーバに対してUCXSingleが利用する44080番のポート番号が使用可能である。
- 動作設定名（JOBID）およびUCXサーバ名などを指定してUCXSingleコマンドが正常に実行できること。また、その実行結果を受け取ることができること。

2.2. UCXSingleジョブの実行環境をセットアップする

JobCenterからUCXSingleジョブを実行するための環境のセットアップ方法について説明します。

2.2.1. バージョンを確認する

JobCenter MG、UCXSingleジョブが実行されるJobCenter SV（構成によってはJobCenter MGと同一マシン）、および、JobCenter CL/WinのバージョンがR12.10であることを確認してください。

なお、上記のJobCenter MGとは、UCXSingleジョブを含むジョブネットワーク定義が格納されるジョブ管理マネージャのことです。

2.2.2. UCXSingleコマンドを格納する

UCXSingleジョブを実行するJobCenter SVのマシン上の任意のパスにUCXSingleコマンド（C版）のバイナリモジュールを格納します。

アクセス権限について、任意のユーザからの実行権限を付与してください。

■設定例（JobCenter SV がHP-UX(IPF)の場合）

```
chmod 111 UCXSingle-Hpux_IPF
```

2.2.3. UCXSingle実行環境設定ファイル（ucxsconf.f）を格納する

2.2.3.1. 格納場所

JobCenter MGの以下の場所にUCXSingleジョブの実行環境を設定するファイル（ucxsconf.f）を格納します。

■UNIXの場合

```
/usr/lib/nqs/ucxs/ucxsconf.f
```

■Windowsの場合

```
%InstallDirectory%\etc\ucxsconf.f
```



%InstallDirectory%はJobCenterをインストールしたディレクトリを示します。
デフォルトはC:\JobCenter\SVになります。



クラスタ環境の場合は、運用系、待機系の両サーバの上記パスに同一のファイルを格納してください。

2.2.3.2. アクセス権限（UNIXの場合）

アクセス権限について、rootユーザからの読み取り権限を付与してください。

■UNIXの場合の設定例

```
chmod 644 /usr/lib/nqs/ucxs/ucxsconf.f
```

2.2.3.3. 設定ファイルの記述方法

設定ファイルには、1行につき1つの設定項目を記載します。各行はラベル名より始まり、半角スペースもしくはタブで区切り、設定内容を記述して必ず改行してください。

ラベル名	設定内容
------	------

ucxsconf.fファイルには以下の項目を設定することができます。

表2.1 設定ファイルucxsconf.f の設定項目

ラベル名	設定内容
cmdpath	UCXSingleコマンドの配置場所を絶対パスにて記述してください。 設定が必須です。
queue	UCXSingleジョブを投入するキューを記述してください。 設定が必須です。



なお、/usr/lib/nqs/ucxs/ucxsconf.def(Windows版JobCenterの場合
は%InstallDirectory%\etc\ucxsconf.def)というファイルは、ucxsconf.fの設定項目
に関する説明が記述されています。

■ucxsconf.fファイルの設定例 (JobCenter SV がHP-UX(IPF)の場合)

```
cmdpath /usr/lib/nqs/ucxs/UCXSingle_Hpux-IPF
queue ucxsjobqueue
```

2.2.4. JobCenter MGを起動する

JobCenterの起動時にJobCenterは、UCXSingleジョブの実行環境を設定するファイル
(ucxsconf.f)を読み込みます。設定内容を変更した場合、JobCenterを再起動してください。



ucxsconf.fの設定内容が正常に読み込まれた場合、UNIX版JobCenterの場合、/usr/
spool/nqs/log/jeerr.logにその設定値が出力されます。(クラスタ環境の場合は、共
有ディスク上の<JobCenterDB パス>/log/jeerr.log)

■jeerr.logの出力例 (JobCenter MG がHP-UX(IPF)の場合)

```
-----
Tue Apr 7 13:10:43 2009
svucxs_InitUCXSj(415):jnwengine(ucxs-option): cmdpath = /usr/lib/nqs/ucxs/UCXSingle-
Hpux-IPF
svucxs_InitUCXSj(421):> jnwengine(ucxs-option): queue = ucxsjobqueue
-----
```

以上でUCXSingleジョブの実行環境のセットアップは終了です。

2.3. UCXSingleジョブを作成、実行、監視、制御、確認する

2.3.1. UCXSingleジョブを作成する

UCXSingleジョブを作成する方法について説明します。

2.3.1.1. JobCenterのビューアで接続する

まず、JobCenter CL/Winを起動してJobCenter MGに接続し、[ユーザフレーム]の[ジョブネットワーク一覧]を開いてください。



操作方法については、<基本操作ガイド>の「2.2 GUI画面を起動する」、<基本操作ガイド>の「2.3 サーバへ接続する」、および<基本操作ガイド>の「2.5.1 ユーザフレームを表示する」参照してください。

2.3.1.2. ジョブネットワークを新規作成し、表示する

UCXSingleジョブを配置するためのジョブネットワークを新規に作成し、ジョブネットワークを表示します。



操作方法については、<基本操作ガイド>の「3.1.2.1 ジョブネットワークを新規作成する」および、<基本操作ガイド>の「3.1.3 ジョブネットワークを表示する」参照してください。

2.3.1.3. ジョブネットワークにUCXSingleジョブを配置する

1. [オブジェクト] ツールバーの[UCXSingleジョブ] オブジェクトのアイコンをクリックし、十字のカーソルを配置したい場所に移動させ、クリックします。

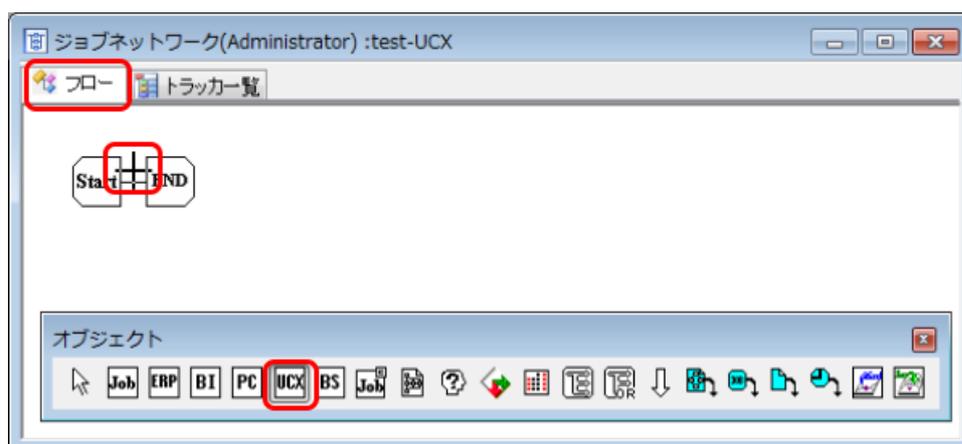


図2.1 UCXSingleジョブアイコンの追加

2. [ジョブ名の設定] ダイアログが表示されますので、UCXSingleジョブ名を設定します。

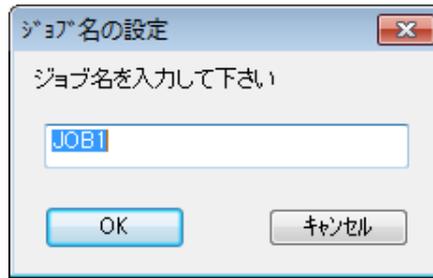


図2.2 新規UCXSingleジョブ名の設定例



UCXSingleジョブの名前を設定する際の注意事項は、単位ジョブと同じです。詳細については、<基本操作ガイド>の「3.1.4 単位ジョブアイコンを追加する」を参照してください。

3. 設定後、[OK] ボタンをクリックします。
4. 新規UCXSingleジョブが追加されたジョブネットワークが表示され、[UCXSingleジョブパラメータの設定] ダイアログが表示されます。

2.3.1.4. UCXSingleジョブパラメータの設定ダイアログを設定する

ここでは、必須の設定項目である動作設定名、および、UCXサーバ名（またはIPアドレス）のみを記述してください。



UCXSingleジョブパラメータの設定の詳細については、3章「UCXSingleジョブのパラメータを設定する」を参照してください。

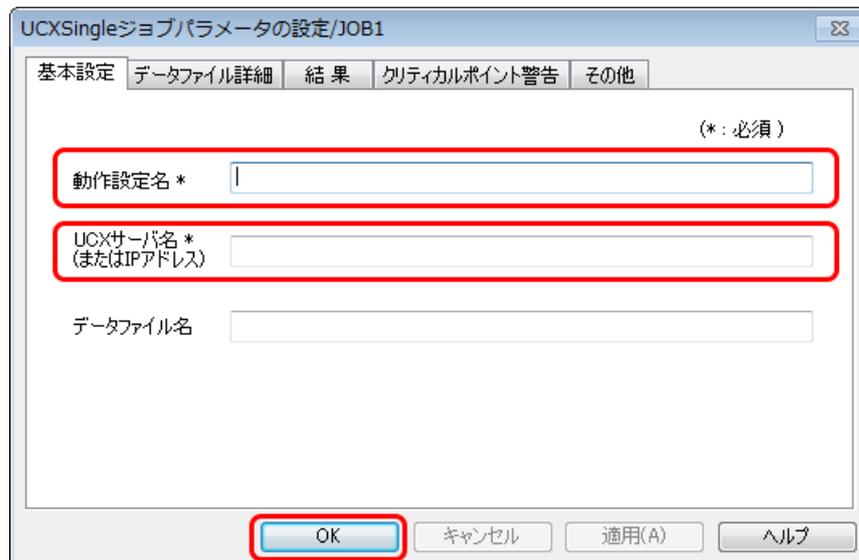


図2.3 UCXSingleジョブパラメータの設定ダイアログの画面例

1. 動作設定名を記述します。
2. Universal Connect/Xのサーバ名、もしくは、IPアドレスを指定します。サーバ名を指定する場合は、名前解決が可能となるようサーバをセットアップしてください。テキスト入力域に半角英数字で、最大255文字以内で入力します。

3. 設定後、[OK] ボタンをクリックします。

2.3.1.5. ジョブネットワークを保存する

作成したジョブネットワークのフローを保存します。

1. メニューバーの [ファイル] - [保存] を選択するか、ツールバーの  アイコンをクリックします。作成したジョブネットワークのフローが保存されます。

2.3.2. UCXSingleジョブを実行する

UCXSingleジョブを実行するには、「[2.3.1 UCXSingleジョブを作成する](#)」で作成したジョブネットワークを即時投入するか、スケジュール実行します。



操作方法については、<基本操作ガイド>の「3.2 ジョブネットワークの実行」を参照してください。スケジュール実行の場合は、<基本操作ガイド>の「5.1 スケジュールを作成する」もあわせて参照してください。

2.3.3. UCXSingleジョブトラッカを監視する

JNWの投入ダイアログで、[トラッカウィンドウを開く] のチェックがONに設定されていると、即時投入が行われるとトラッカウィンドウが開きます。

なお、スケジュール実行をした場合は、ユーザフレームのトラッカー一覧やジョブネットワークのトラッカー一覧などから該当するジョブネットワークのトラッカウィンドウを開きます。



トラッカー一覧の表示方法については、<基本操作ガイド>の6章 「ジョブの監視と管理 (トラッカの使用法)」 を参照してください。

UCXSingleジョブアイコンの表示が、 から  に変われば実行は終了です。

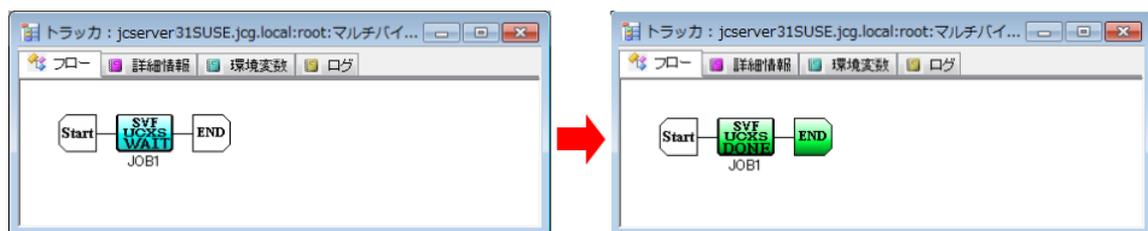


図2.4 即時投入実行後のジョブネットワークトラッカウィンドウの例



UCXSingleジョブが異常終了した場合、下記の3点をご確認ください。

- ジョブネットワークトラッカのログ情報
- UCXSingleジョブの [詳細情報] タブの終了理由 (「[2.3.5 UCXSingleジョブの実行結果を確認する](#)」に従って操作し、確認します。)
- UCXSingleジョブの [エラー出力結果] タブの内容

2.3.4. UCXSingleジョブトラッカを操作する

UCXSingleジョブトラッカアイコンを右クリックしてメニューを選択すると、UCXSingleジョブトラッカを操作できます。

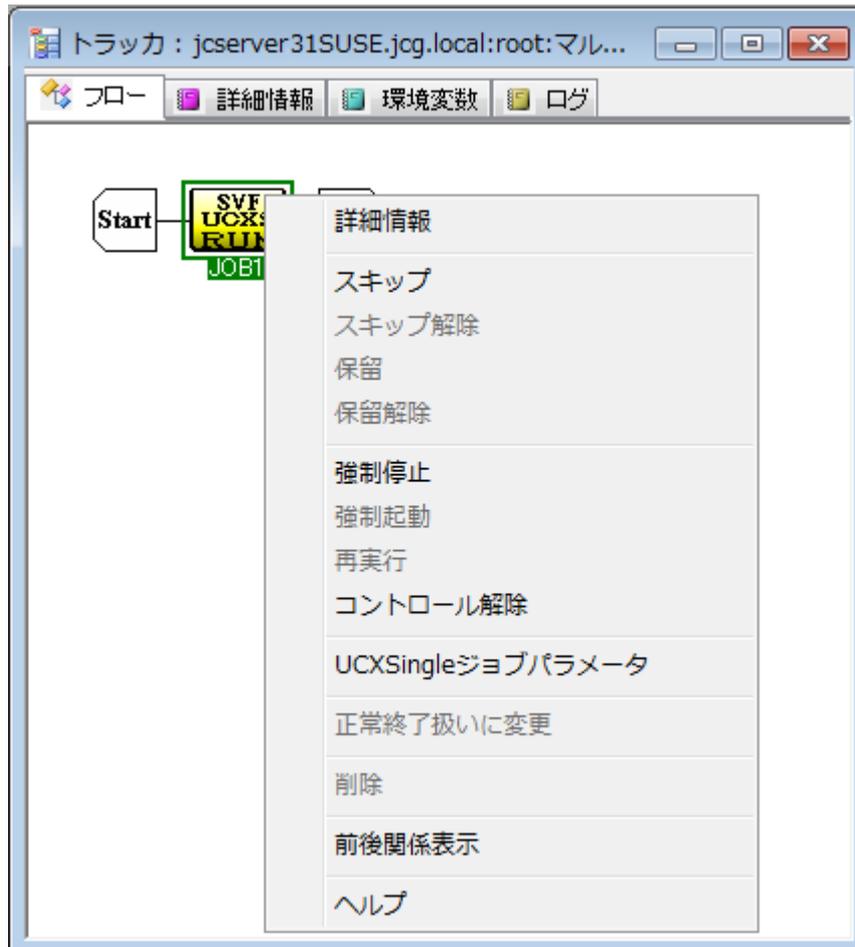


図2.5 実行中のUCXSingleジョブトラッカの操作画面例



UCXSingleジョブトラッカの操作項目については、「[4.2 UCXSingleジョブトラッカアイコンの操作](#)」を参照してください。

2.3.5. UCXSingleジョブの実行結果を確認する

UCXSingleジョブトラッカアイコンをダブルクリックまたは右クリックしてメニューから「詳細情報」を選択すると、UCXSingleジョブの実行結果の詳細を確認できます。

1. UCXSingleジョブアイコンを選択し、右クリックしたときのポップアップメニューの「詳細情報」を選択します。

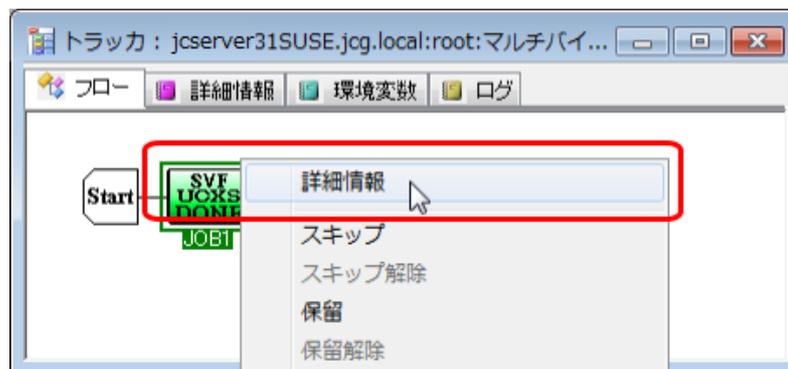


図2.6 「詳細情報」選択画面例

2. 詳細情報のウィンドウが表示されます。デフォルトで [詳細情報] タブが選択されているので、内容を確認します。



図2.7 詳細情報表示例



UCXSingleジョブトラッカの詳細情報のウィンドウについては、「[4.3 UCXSingleジョブトラッカウィンドウの詳細情報を参照する](#)」を参照してください。

第3章 UCXSingleジョブのパラメータを設定する

3.1. UCXSingleコマンドオプションとの対応一覧

JobCenterのUCXSingleジョブのパラメータ設定とUniversal Connect/XのUCXSingleコマンドオプションの対応は以下の通りです。

表3.1 パラメータの設定項目とUCXSingleコマンドオプションの対応一覧

タブ名	パラメータ設定項目名	UCXSingleオプション名
基本設定	動作設定名	コマンド引数
	UCXサーバ名(またはIPアドレス)	-h ^{注2}
	データファイル名	コマンド引数
データファイル詳細	エンコード自動判別	-c ^{注3}
	エンコーディング名	
	データファイル種別	-8/--utf8 -f/--not-utf8
	処理後のデータファイルの扱い	-d or -r or -u
結果	UCXサーバの処理結果を待つ	-F ^{注4}
	処理ページ数	-K
	文書管理番号	-N
	出力ファイルをUCXクライアントにダウンロードする	-G or -g ^{注5}
	出力ファイル名	
	同一ファイル名が存在する場合、上書き保存する 出力ファイルのダウンロード時にファイル圧縮を行う	-z
クリティカルポイント警告 ^{注1}	-	-
その他 ^{注1}	-	-



- 注1 JobCenterのジョブ制御に関する設定タブです。UCXSingleコマンドオプションに対応する設定項目はありません。
- 注2 JobCenterからUCXSingleジョブを投入する場合、UCXサーバ名（またはIPアドレス）の省略はできません。（省略によるlocalhostの暗黙の指定はできません。）
- 注3 エンコーディング自動判別をOFFとした場合、エンコーディング名が設定できません。
- 注4 設定のラジオボタンのチェックがOFFの場合、-Fオプションが指定されます。
- 注5 上書き保存する場合-Gオプションが指定され、そうでない場合は-gオプションが指定されます。出力ファイル名はオプションの引数として指定されます。

JobCenterがサポートしていないUCXSingleコマンドのオプションは以下の通りです。

表3.2 JobCenterがサポートしていないUCXSingleコマンドオプションの一覧

オプション名	動作概要
-D/--adjustd	ドット単位での印字位置の調整
-k/--keepalive	秒単位のキープアライブ時間の指定
-l/--logfile	処理実行時のログ出力

-M/--adjustm	ミリ単位での印字位置の調整
-p/--port	Universal Connect/X サーバのポート番号の指定
-s/--show-created-file-name	Java 関連実行部により生成された出力ファイルのファイル名の表示
-t/--timeout	秒単位でタイムアウト時間の指定
-T/--show-total-pages	1JOB 間の印刷ページ数のみ取得し、ファイルを出力しない
-n/--nolog	処理実行時のログを出力しない
-v/--version	UCXSingle のバージョンの表示
--help	ヘルプの表示

3.2. UCXSingleジョブの実行条件（パラメータ）を設定する

UCXSingleジョブのパラメータの設定では、現在UCXSingleジョブに設定されているパラメータの参照および変更ができます。

1. 選択したUCXSingleジョブアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから [パラメータ] を選択します。
2. [UCXSingleジョブパラメータの設定] ダイアログが表示されます。

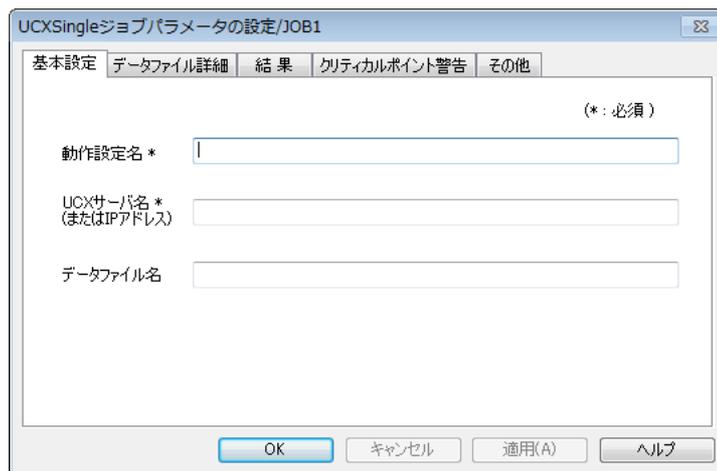


図3.1 [UCXSingleジョブパラメータの設定] ダイアログ画面例

3. [基本設定]、[データファイル詳細]、[結果]、[クリティカルポイント警告] および [その他] の各タブにおいて設定を行います。
4. 設定後、[OK] ボタンをクリックします。

[UCXSingleジョブパラメータの設定] ダイアログでは、[基本設定]、[データファイル詳細]、[結果]、[クリティカルポイント警告] および [その他] の各タブで次の設定ができます。

3.2.1. [基本設定] タブ

UCXSingleジョブの処理に関する基本的な設定を行います。

■動作設定名

Universal Connect/Xの動作設定アプレットで設定されているJOBIDを指定します。

テキスト入力域に半角英数字で、最大512文字以内で入力します。

本設定項目は必須の設定項目です。

■UCXサーバ名（またはIPアドレス）

Universal Connect/Xのサーバ名、もしくは、IPアドレスを指定します。サーバ名を指定する場合は、名前解決が可能となるようサーバをセットアップしてください。

テキスト入力域に半角英数字で、最大255文字以内で入力します。

本設定項目は必須の設定項目です。

■データファイル名

実際に印刷するデータファイル名を設定します。

テキスト入力域にUCXSingleジョブを実行するJobCenter上（[図3.2「データファイル名設定時の帳票データ転送イメージ1」](#)、[図3.3「データファイル名設定時の帳票データ転送イメージ2」](#)を参照）のファイル名を絶対パス表記、512文字以内で入力します。2バイト文字は設定できません。

本設定項目を設定しない場合は、帳票サーバ上にデータファイルが配置される構成である必要があります。

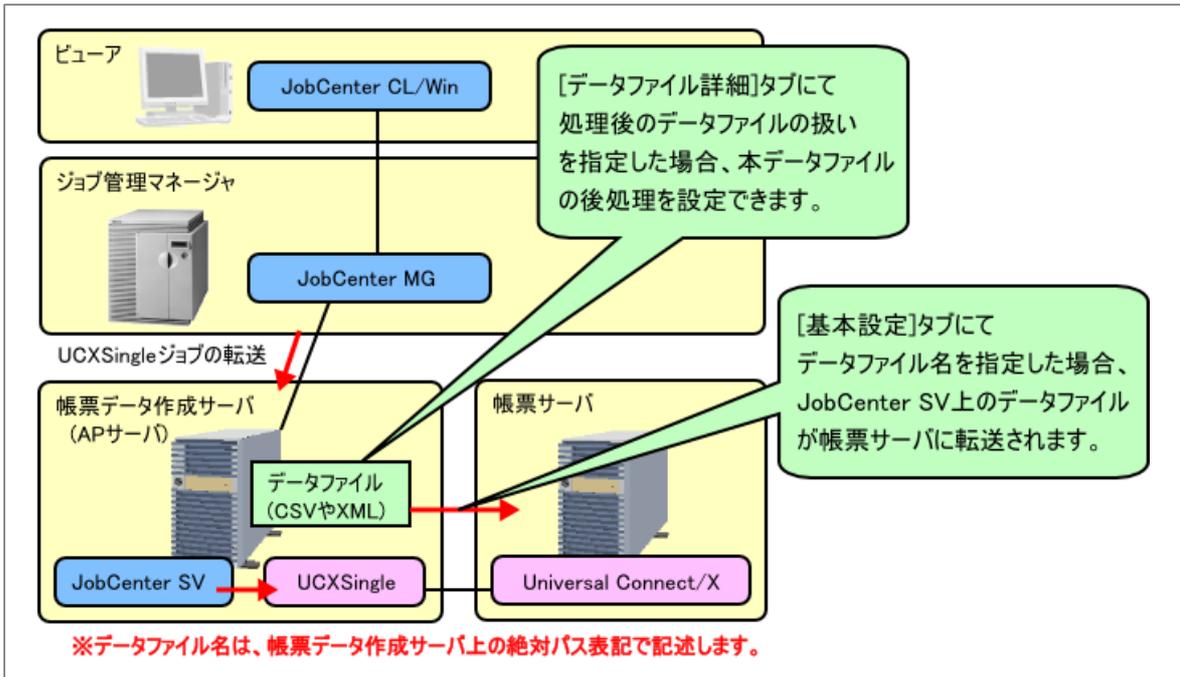


図3.2 データファイル名設定時の帳票データ転送イメージ1

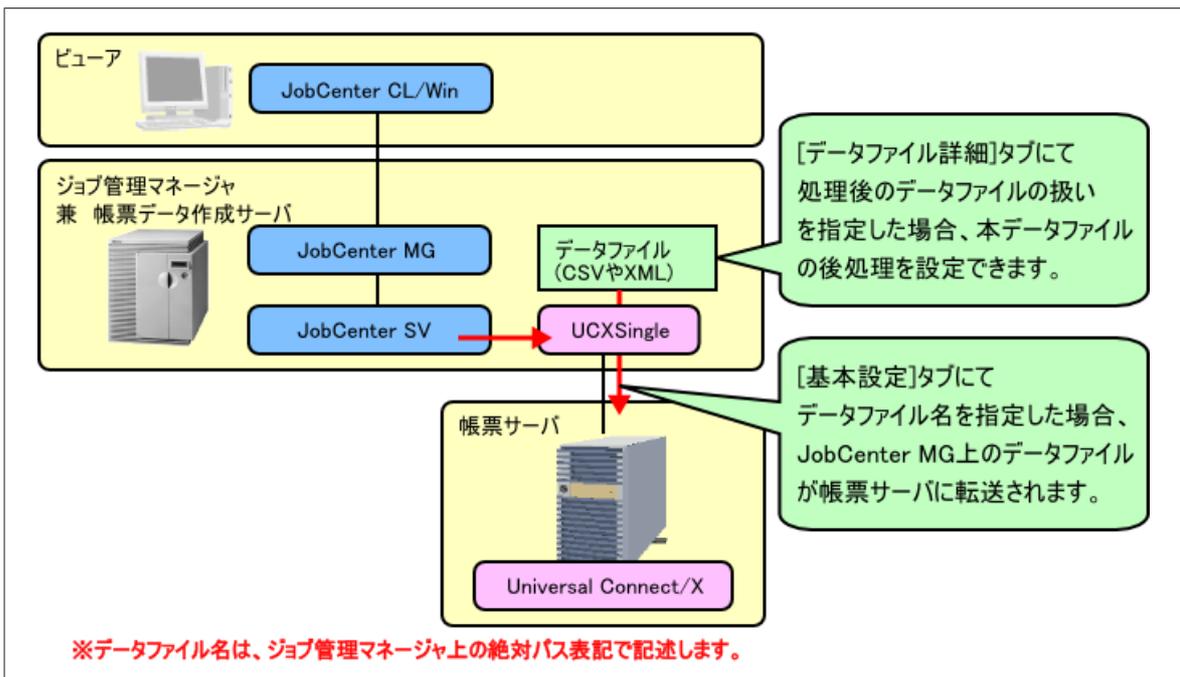


図3.3 データファイル名設定時の帳票データ転送イメージ2

3.2.2. [データファイル詳細] タブ

UCXSingleジョブのデータファイルの詳細設定を行います。

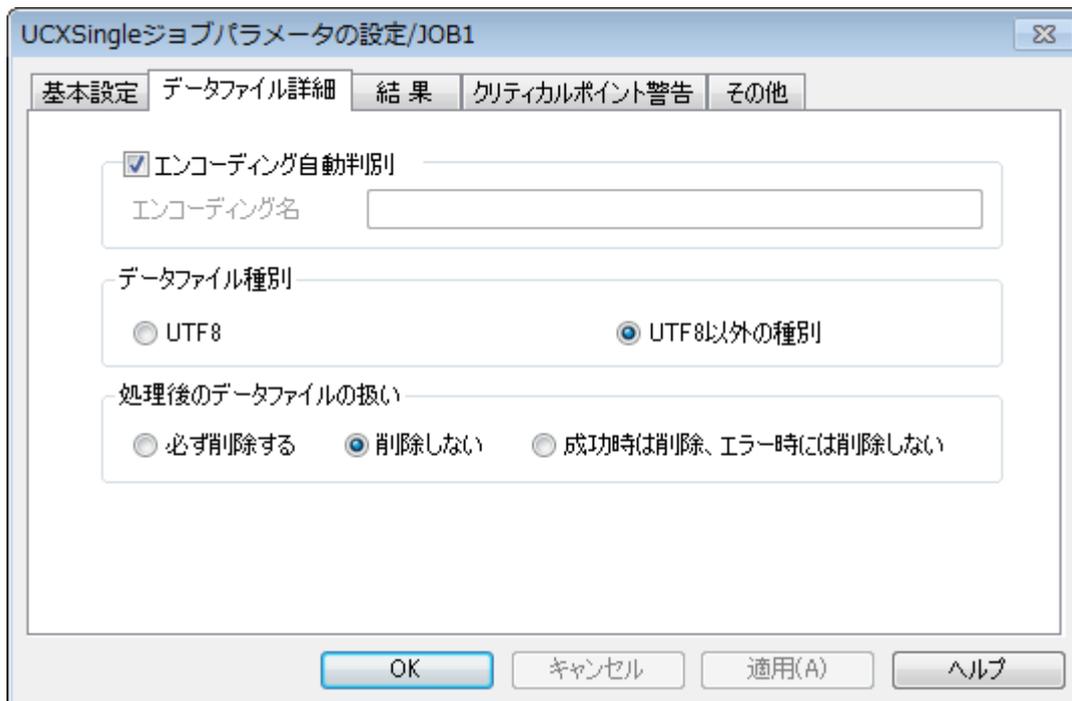


図3.4 [UCXSingleジョブパラメータの設定] - [データファイル詳細] 画面例

■エンコーディングの自動判別

データファイルのエンコーディングの動作を指定します。デフォルトではチェックボックスのチェックがある状態です。

チェックあり	エンコードを指定せずにUCXSingleの処理が命令されます。 (Universal Connect/Xサーバの設定に従いエンコードされます。)
チェックなし	CSV データファイルあるいはXMLデータファイルをエンコードする場合のエンコーディング名を指定します。 テキスト入力域に半角英数字で、最大512文字以内で入力します。

■データファイル種別

データファイルがUTF-8フォーマットであるかどうかを指定します。デフォルトは、"UTF8以外の種別"です。

UTF8	データファイルがUTF-8フォーマットの場合に指定します。
UTF8以外の種別	データファイルがUTF-8フォーマットでない場合に指定します。

■処理後のデータファイルの扱い

UCXSingleの処理後に、UCXSingleジョブを実行するJobCenter上 (図3.2「データファイル名設定時の帳票データ転送イメージ1」、図3.3「データファイル名設定時の帳票データ転送イメージ2」を参照) のデータファイルを削除するかどうかを指定します。デフォルトは、"削除しない"です。

必ず削除する	処理後、データファイルを必ず削除します。
--------	----------------------

削除しない	処理後、データファイルを削除しません。
成功時は削除、エラー時には削除しない	処理が異常終了した場合にデータファイルを削除しません。



本設定は、データファイル名を指定した場合に有効となります。

3.2.3. [結果] タブ

UCXSingleジョブの処理結果に関する設定を行います。

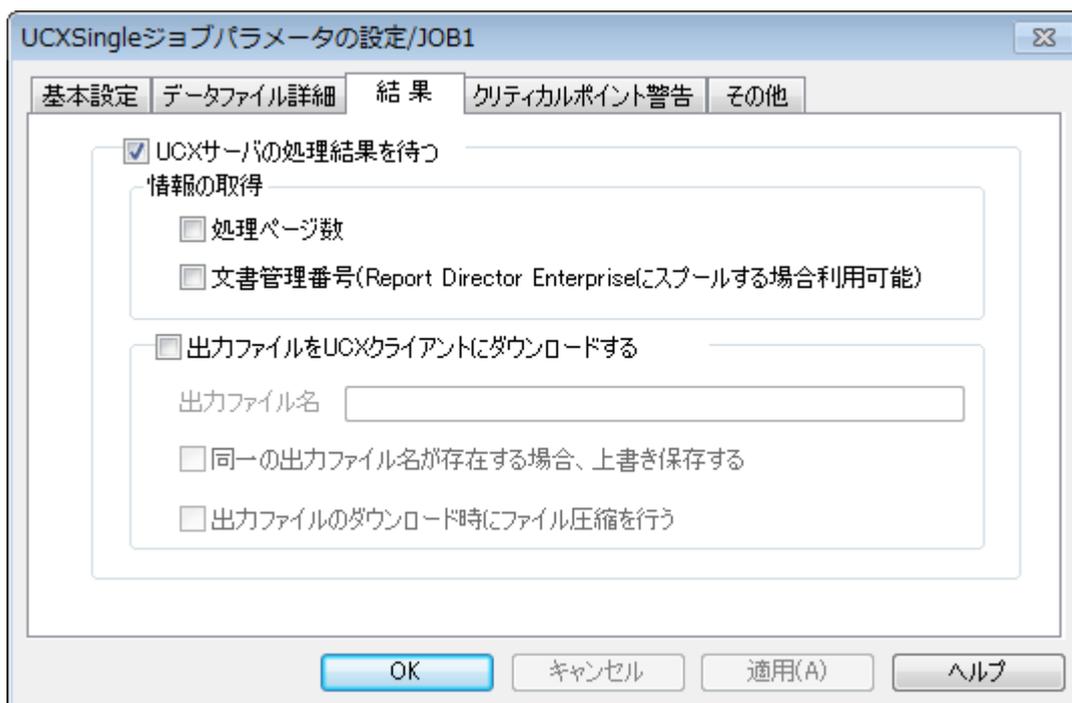


図3.5 [UCXSingleジョブパラメータの設定] - [結果] 画面例

■UCXサーバの処理結果を待つ

チェックあり	UCXサーバの処理の結果を待ち合わせてUCXSingleジョブが終了します。
チェックなし	UCXサーバ側へデータファイルの転送を行い、その転送完了通知をUCXサーバから受け取り、UCXサーバでの処理終了結果を待たずにUCXSingleジョブが終了します。印刷処理自体はUCXサーバ上で継続・終了します。



本設定をチェックなしとする場合は、UCXサーバへデータファイルの転送が必須となりますので、[基本設定] タブにてデータファイル名を設定してください。

[情報の取得]

UCXSingleジョブの処理結果とともに情報を取得するかを設定できます。取得した結果は、UCXSingleジョブトラッカの詳細情報タブに表示されます。

処理ページ数	チェックありの場合、1JOB間の印刷ページ数を取得します。
文書管理番号 (Report Director Enterpriseにスプールする場合利用可能)	チェックありの場合、Report Director Enterpriseにスプールする際の文書管理番号を取得します。

[出力ファイルをUCXクライアント(JobCenter MG)にダウンロードする]

出力ファイルをUCXクライアント (JobCenter MG) にダウンロードするかどうかを設定できます。

チェックあり	<p>出力ファイルをUCXクライアントにダウンロードします。</p> <p>[データファイル名] の指定が必須となります。</p> <p>[データファイル名] のテキスト入力域に出力ファイル名を絶対パス表記で512文字以内で入力します。2バイト文字は設定できません。</p> <p>以下の2点が追加で設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [同一の出力ファイル名が存在する場合、上書き保存する] 	
チェックあり	ダウンロード先のパスに同一の出力ファイル名が存在する場合にファイルを上書き保存します。	
チェックなし	上書きせずにユニークなファイル名をつけます。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ [出力ファイルのダウンロード時にファイル圧縮を行う] 	
チェックあり	出力ファイルをUniversal Connect/XサーバからUCXSingle実行環境に転送する際に、ファイルを圧縮します。	
	(転送中の通信データがファイル圧縮されるだけで、ダウンロードされて配置されたファイルは圧縮されていません。)	
チェックなし	ファイルを圧縮しません。	
チェックなし	出力ファイルをUCXクライアントにダウンロードしません。	

3.2.4. [クリティカルポイント警告] タブ

指定した時刻になってもその部品の実行が開始されないときおよび終了しないときに、警告メッセージを出力します。またそのときの操作を指定します。

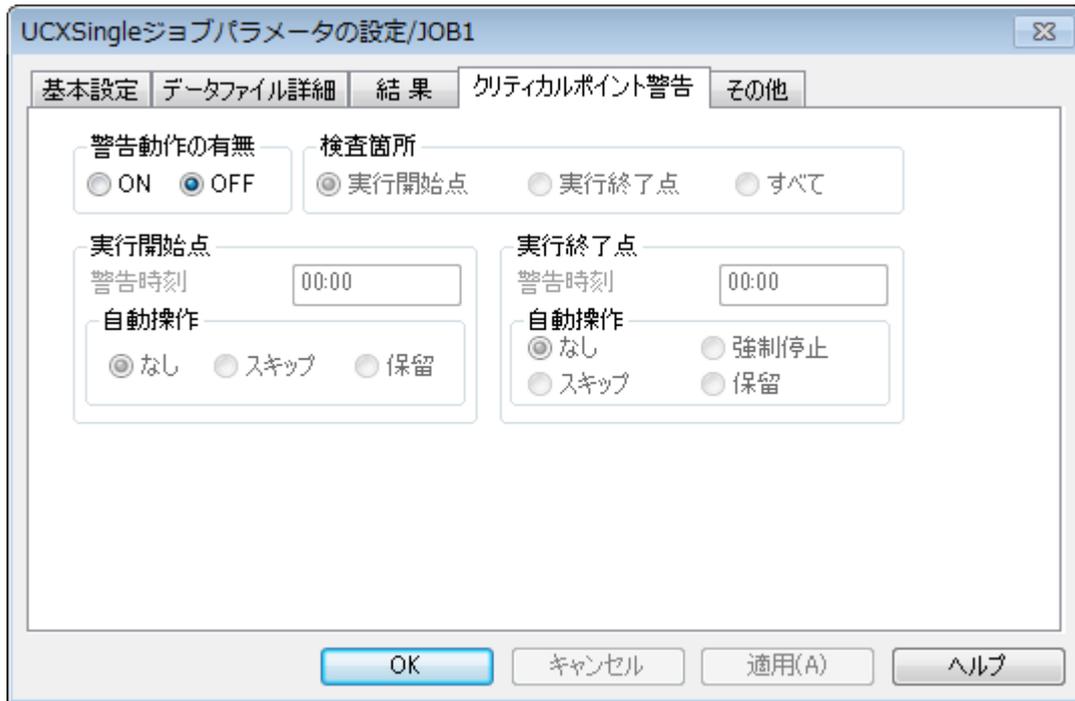


図3.6 [UCXSingleジョブパラメータの設定] – [クリティカルポイント警告] 画面例

■警告動作の有無

「ON」の場合クリティカルポイント警告機能が動作します。

「OFF」の場合は動作しません。

■検査箇所

検査の実行箇所を次から選択します。（クリティカルポイント警告機能動作中）

実行開始点	指定した時刻になってもその部品の実行が開始しないときに、警告メッセージを出力し、指定した動作を行います。
実行終了点	指定した時刻になってもその部品の実行が終了しないときに、警告メッセージを出力し、指定した動作を行います。
すべて	実行開始点と実行終了点の両方で指定した時刻になってもその部品の実行が開始または終了しないときに、警告メッセージを出力し、指定した動作を行います。

■実行開始点

部品の予想開始時刻と、その時刻に開始されないときの操作を指定します。

[警告時刻]

検査実行の時刻を24時間制の時刻（HH:MM）か、相対時間（実行開始からの経過時間（+HHH:MM））を次の範囲から指定します。UCXSingleジョブのクリティカルポイント警告を相対時間で設定した場合、基準となる時刻は最上位の親ジョブネットワークの予定開始時刻となります。

絶対時刻	00:00～23:59
相対時間	+000:00～+999:59

[自動操作]

警告発生時に、その部品に対して行う操作を次から選択します。

なし	警告発生時に、自動操作を行いません。
スキップ	警告発生時に、その部品をスキップします。
保留	警告発生時に、その部品を保留します。

■実行終了点

部品の予想終了時刻と、その時刻に終了されないときの操作を指定します。

[警告時刻]

検査実行の時刻を24時間制の時刻（HH:MM）か、相対時間（実行開始からの経過時間（+HHH:MM））を次の範囲から指定します。UCXSingleジョブのクリティカルポイント警告を相対時間で設定した場合、基準となる時刻は最上位の親ジョブネットワークの予定開始時刻となります。

絶対時刻	00:00～23:59
相対時間	+000:00～+999:59

[自動操作]

警告発生時に、その部品に対して行う操作を次から選択します。

なし	警告発生時に、自動操作を行いません。
強制停止	警告発生時に、その部品を強制停止します。
スキップ	警告発生時に、その部品をスキップします。
保留	警告発生時に、その部品を保留します。

3.2.5. [その他] タブ

UCXSingleジョブに関してその他の設定を指定します。

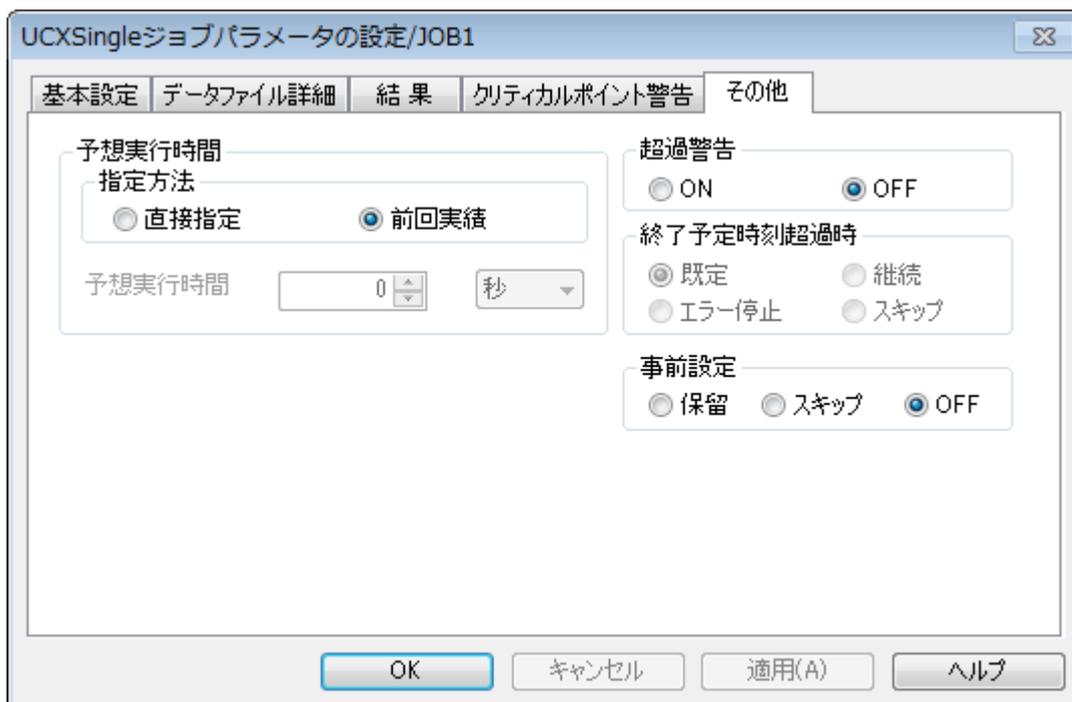


図3.7 [UCXSingleジョブパラメータの設定] - [その他] 画面例

■ 予想実行時間

UCXSingleジョブの実行にかかる時間の予測値を設定します。この予測時間はトラッカー一覧のグラフィックモード（ガントチャート）などに反映されます。ジョブネットワークの実行時間計算に使用されます。

[指定方法]

次から選択します。

直接指定	ユーザ環境設定値をUCXSingleジョブの予想実行時間とします。
前回実績	そのUCXSingleジョブが正常終了した最近の実行実績を、UCXSingleジョブの予想実行時間とします。

[予想実行時間]

「指定方法」において「直接指定」を選択した場合、ユーザ側で時間を入力します。時間の数値と単位は次のいずれかを選択することができます。（ ）内は設定範囲です。

秒	(0~31536000)
分	(0~525600)
時間	(0~8760)
日	(0~365)

■ 超過警告

予想実行時間を過ぎててもUCXSingleジョブが終了しない場合に、統合監視サービスやWindows イベントログに警告メッセージを出力するかどうか設定します。

「ON」の場合に警告メッセージを出力します。

「OFF」の場合は警告メッセージを出力せず、次に説明する終了予定時刻超過時の動作も行われません。

■終了予定時刻超過時

超過警告「ON」の場合に、予想実行時間を過ぎてもUCXSingleジョブが終了しない場合の動作を次から選択します。

既定	ユーザ環境設定に従います。
継続	UCXSingleジョブの実行を継続します。
エラー停止	UCXSingleジョブの実行を停止します。
スキップ	UCXSingleジョブの実行をスキップします。

■事前設定

ジョブをあらかじめ保留またはスキップ状態にしておきます。

保留	ジョブネットワーク投入時に当該UCXSingleジョブを保留状態にします。
スキップ	ジョブネットワーク投入時に当該UCXSingleジョブをスキップ状態にします。
OFF	ジョブネットワーク投入時に当該UCXSingleジョブを保留状態およびスキップ状態にしません。

第4章 UCXSingleジョブトラッカアイコンを操作する

4.1. UCXSingleジョブトラッカアイコンの状態

[ジョブネットワークトラッカ] ウィンドウの [フロー] タブの中で、UCXSingleジョブトラッカアイコン、ラベル、 のボタンによって表示されるジョブ一覧画面のUCXSingleジョブの状況、トラッカの色の関係を次の表4.1「UCXSingleジョブトラッカのアイコン、ラベル、状況、トラッカの色の関係」に示します。

色の設定は変更することができます。詳細については、<環境構築ガイド>の「6.6 色の設定を変更する」を参照してください。

表4.1 UCXSingleジョブトラッカのアイコン、ラベル、状況、トラッカの色の関係

アイコン	ラベル	状況	色	説明
	WAIT	予定	水色	実行が予定されています。
	SUBMIT	投入	黄	UCXSingleジョブが投入されて、キューの中で待っている状態です。
	RUN	実行中	黄	UCXSingleジョブが実行中です。
	DONE	正常終了	緑	UCXSingleジョブが正常終了しました。
	SKIP	スキップ済	緑	実行はスキップされました。
	KILLED	中断済	緑	スキップ処理により、実行は中断されました。
	STOP	エラー停止	赤	エラー発生のため実行を停止しています。
	ERROR	異常終了	赤	エラーが発生して終了しました。
	ABORT	中断	赤	異常が発生し、実行は中断されました。
	SKIP	分岐スキップ済	薄灰	条件分岐やカレンダー分岐の設定によってUCXSingleジョブは1度も実行されず、スキップされました。

スキップ予定のものにはこれらの「状況」の右側に [スキップ] が表示され、保留されているものには [保留] が、アーカイブされているものには [アーカイブ済] がそれぞれ表示されます。

4.2. UCXSingleジョブトラッカアイコンの操作

ジョブネットワークトラッカ内のUCXSingleジョブアイコンを選択し、右クリックするとUCXSingleジョブトラッカに対して可能な操作がポップアップメニューに表示されます。

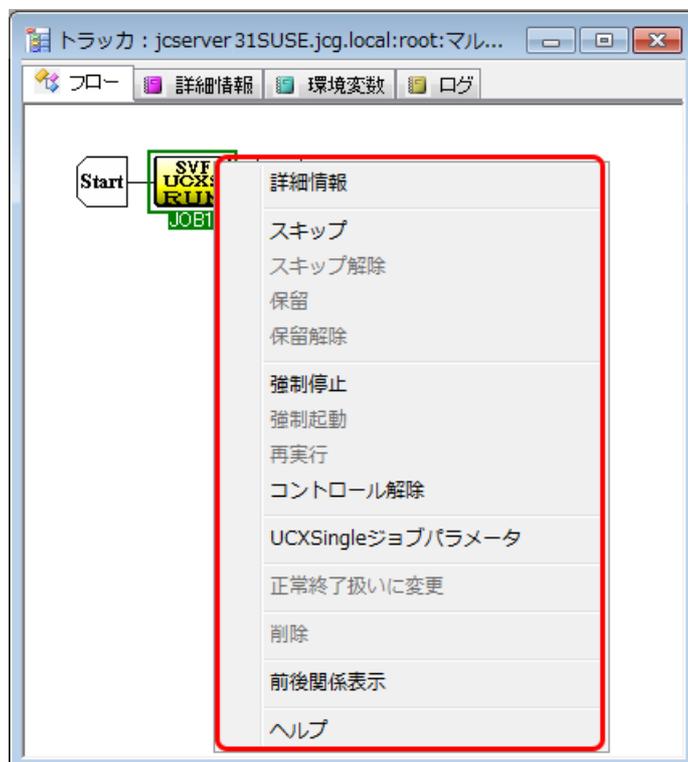


図4.1 UCXsingleジョブトラッカアイコン操作画面例

ポップアップメニューから行える操作は次のとおりです。

■ 詳細情報

UCXSingleジョブの実行情報を参照することができます。

■ スキップ

実行中のUCXSingleジョブは中断して以降のジョブを実行します。またUCXSingleジョブの状態にかかわらずUCXSingleジョブにスキップマークをつけます。スキップマークのついたUCXSingleジョブは実行順が来ても実行しません。

実行前の状態では、そのUCXSingleジョブをスキップ予定とします。スキップ予定のUCXSingleジョブは実行順序が来ても実行されず、次のジョブの実行に移ります。

実行後の状態では、スキップ予定となり再実行時にスキップします。

スキップ予定のものにはアイコンにスキップの矢印がつけます。

■ スキップ解除

[スキップ] によってつけられたスキップ予定を解除します。

■ 保留

UCXSingleジョブを保留状態にします。保留状態のUCXSingleジョブは実行順序が来ても保留解除されるまで待ち合わせます。

保留操作は実行前または実行後のUCXSingleジョブに対してのみ有効です。実行後のUCXSingleジョブを保留した場合は再実行時に待ち合わせとなります。

保留されているものには手の印がつきます。

■強制停止

実行中のUCXSingleジョブを中断します。UCXSingleのプロセスにはSIGKILLシグナルが送られます。ジョブネットワークの実行は停止します。

■強制起動

このUCXSingleジョブ以降の待ち合わせ中のジョブを強制的に実行開始します。

■再実行

このUCXSingleジョブ以降の実行済みジョブを再実行します。

■コントロール解除

このUCXSingleジョブをJobCenterの監視下から切り離します。対象となるUCXSingleジョブは表示上エラー状態となり、実行結果の取得は行いません。ジョブネットワークの処理はコントロール解除されたUCXSingleジョブの次の部品から引き続き行われます。

■UCXSingleジョブパラメータ

このUCXSingleジョブに現在設定されているパラメータが表示されます。

詳細については、「[3.2 UCXSingleジョブの実行条件 \(パラメータ\) を設定する](#)」を参照してください。

■正常終了扱いに変更

異常終了、警告終了しているUCXSingleジョブを正常終了扱いに変更します。

■削除

このUCXSingleジョブを削除します。

■前後関係表示

このUCXSingleジョブの前後関係を表示します。詳細については、<基本操作ガイド>の「6.21 トラッカの前後関係を表示する」を参照してください。

■ヘルプ

UCXSingleジョブトラッカに関するヘルプを表示します。

4.3. UCXSingleジョブトラッカウィンドウの詳細情報を参照する

1. UCXSingleジョブの実行トラッカを表すアイコンをダブルクリックまたは右クリックしたときのポップアップメニューから [詳細情報] を選択します。
2. [UCXSingleジョブトラッカ] ウィンドウを開きます。UCXSingleジョブの実行情報や実行結果を参照します。

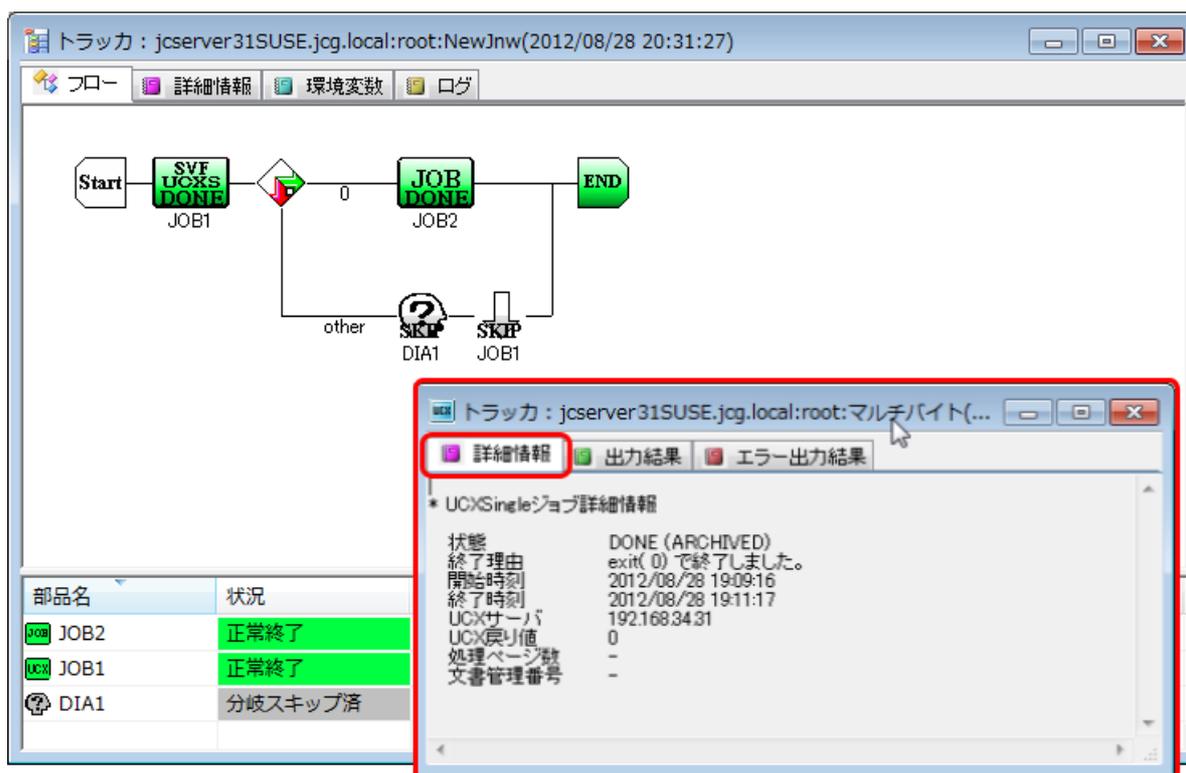


図4.2 [UCXSingleジョブトラッカ] ウィンドウ画面例

[UCXSingleジョブトラッカ] ウィンドウには [詳細情報]、[出力結果]、[エラー出力結果]、[スクリプト] の各タブがあります。

表4.2 [UCXSingleジョブトラッカ] ウィンドウのタブ一覧

タブ	内容
[詳細情報]	UCXSingleジョブの実行情報を参照することができます。
[出力結果]	UCXSingleプロセスから標準出力に出力された内容です。
[エラー出力結果]	UCXSingleプロセスから標準エラー出力に出力された内容です。 なお、JobCenterのjnwengineプロセスがエラー出力結果タブにメッセージを出力する場合は「jnwengine:」もしくは、「Unable to execute UCXSingle job」で始まるメッセージが表示されます。

[詳細情報] タブには次に説明する [状態]、[終了理由]、[開始時刻]、[終了時刻]、[UCXサーバ] [UCX戻り値]、[処理ページ数]、[文書管理番号] があります。

表4.3 [詳細情報] タブの項目一覧

タブ	内容
----	----

状態	UCXSingleジョブトラッカの状態を表示します。
終了理由	UCXSingleジョブの終了理由を表示します。 正常終了した場合は「exit(0)で終了しました」と表示します。 異常終了した場合はUCXのエラー番号、およびエラー番号に対応するメッセージを表示します。エラー番号および対応するメッセージの詳細については、Universal Connect/Xのマニュアルを参照してください。
開始時刻	UCXSingleジョブが開始された日時を表示します。
終了時刻	UCXSingleジョブが終了した日時を表示します。
UCXサーバ	UCXSingleの処理を実行するマシン名が表示されます。
UCX戻り値	UCXの戻り値を表示します。
処理ページ数	UCXSingleジョブパラメータの設定で処理ページ数を取得する設定の場合、取得したページ数を表示します。 取得をしない設定やまだ処理結果を受け取っていない場合、"- "を表示します。
文書管理番号	UCXSingleジョブパラメータの設定で文書管理番号を取得する設定の場合、取得した文書管理番号を表示します。 取得をしない設定やまだ処理結果を受け取っていない場合、"- "を表示します。  RDEに文書がスプールされない設定の環境についてもUCXSingleプロセスがUniversal Connect/Xから文書管理番号を受け取れないため、"- "を表示します。

第5章 UCXSingleジョブの関連機能

UCXSingleジョブに関連する機能について説明します。

5.1. 部品オブジェクトの設定について

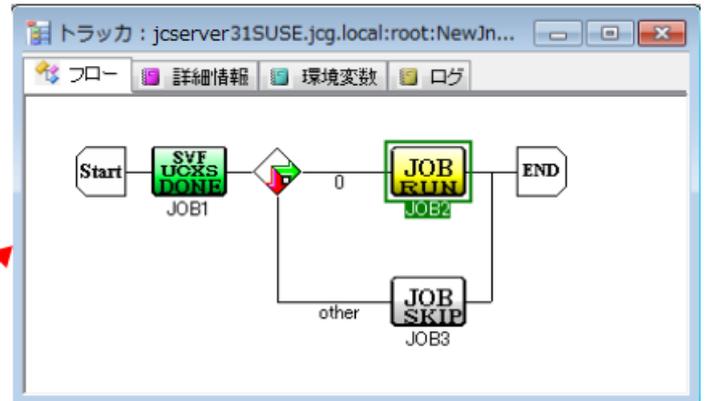
部品オブジェクトの使用方法について、UCXSingleジョブに関連する動作仕様、およびUCXSingleジョブの機能追加に伴う変更点について説明します。

5.1.1. UCXSingleジョブの後ろに条件分岐部品を配置する

UCXSingleジョブの後ろに条件分岐部品があるジョブネットワークで、UCXSingleジョブの実行が正常終了した場合、終了コードは0となります。

UCXSingleジョブの実行が異常終了した場合やスキップされた場合、条件分岐で0,other以外を設定している、いないに関わらず、フロー処理はotherに進みます。

実行が正常終了した場合



実行が異常終了した場合

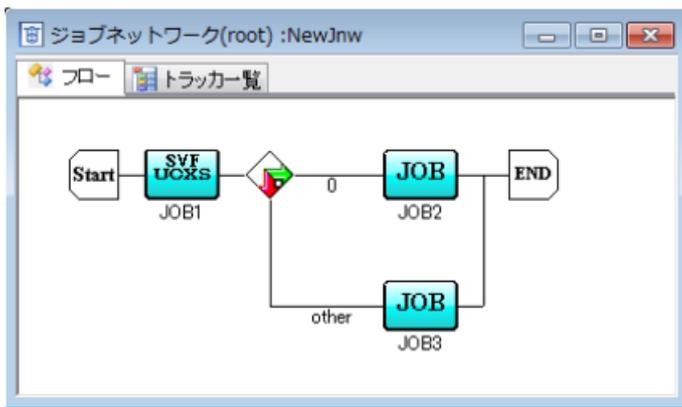
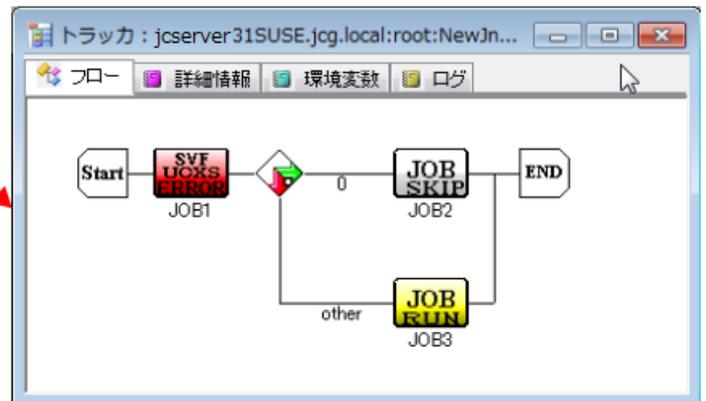


図5.1 条件分岐の画面例

5.1.2. コンティニュー部品の飛び先部品にUCXSingleジョブを設定する

以下の手順でコンティニュー部品の行き先にUCXSingleジョブを指定します。

1. コンティニュー部品を配置します。
2. [コンティニューの設定] ダイアログが表示されます。（コンティニュー部品の配置後は、コンティニュー部品をダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから [設定] を選択すると、[コンティニューの設定] ダイアログが表示されます。）
3. コンティニュー部品の飛び先部品にUCXSingleジョブを選択し、コンティニューの設定を行います。

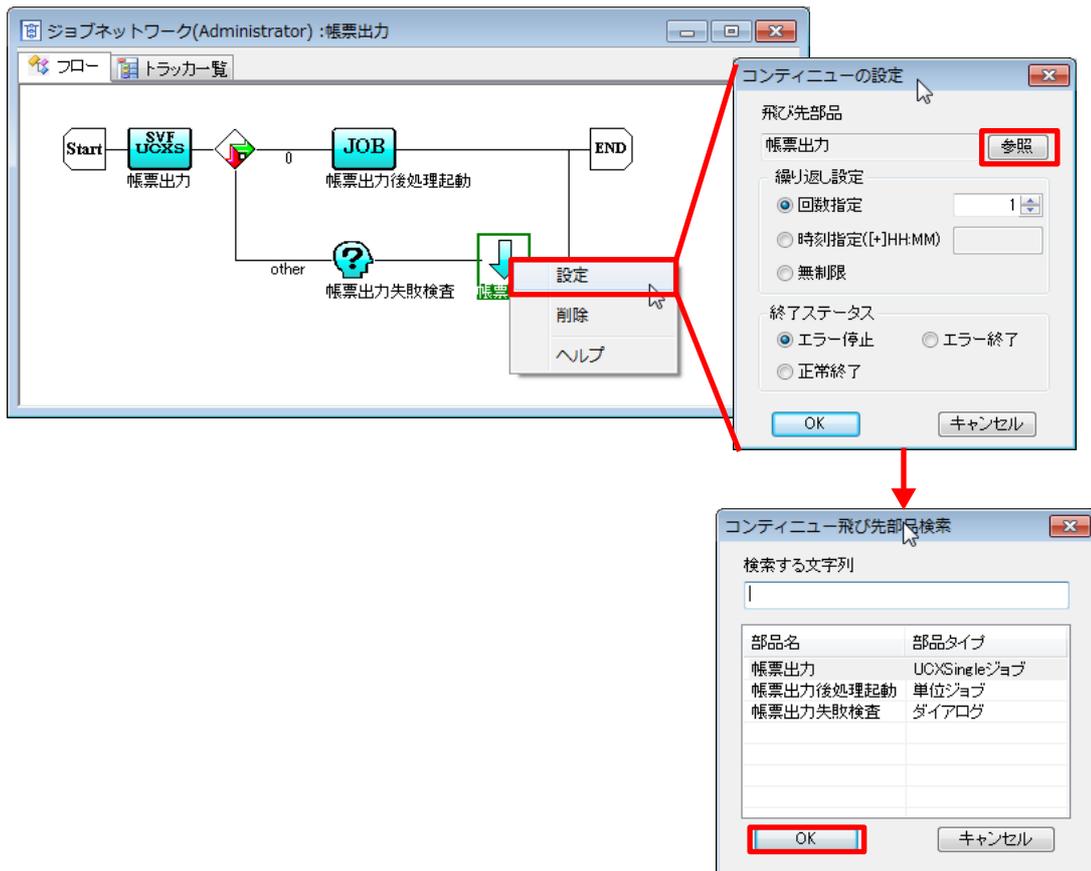


図5.2 コンティニュー部品の設定画面例

4. 設定後、[OK] ボタンをクリックします。

5.1.3. ジョブ待ち合わせでUCXSingleジョブを待ち合わせする

以下の手順でジョブ待ち合わせオブジェクトを用いてUCXSingleジョブを待ち合わせることができます。

5.1.3.1. 同じジョブネットワークに所属するUCXSingleジョブの待ち合わせ

1. ジョブ待ち合わせオブジェクトを配置します。
2. [ジョブ待ち合わせの設定] ダイアログが表示されます。(オブジェクト配置後は、ジョブ待ち合わせアイコンをダブルクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューから[設定]を選択すると、[ジョブ待ち合わせの設定] ダイアログが表示されます。)
3. ジョブ待ち合わせの設定を行います。



図5.3 ジョブ待ち合わせの設定画面例

4. 右側のボックスには待ち合わせの対象とするUCXSingleジョブ名を指定します。
5. 左側のボックスにはそのUCXSingleジョブが所属するジョブネットワーク名を指定します。
[(対象ジョブネットワークが属する) 最上位ジョブネットワーク名:サブジョブネットワーク名:・・・:対象サブジョブネットワーク名] の形式で記述します。ジョブネットワーク名の指定を省略した場合は、ジョブ待ち合わせ部品を設定したジョブネットワーク自身が対象となります。
6. 設定後、 [OK] ボタンをクリックします。

5.1.3.2. ジョブ待ち合わせ部品が所属するジョブネットワークまたはサブジョブネットワーク以外のジョブネットワーク、および他ユーザのジョブネットワーク中のUCXSingleジョブの待ち合わせ

[ジョブ待ち合わせの設定] ダイアログの左側のボックスに、 [:ユーザ名:最上位ジョブネットワーク名:・・・:最下位サブジョブネットワーク名] の形式で記述します。

5.2. 部品検索でUCXSingleジョブのトラッカを検索する

部品検索の機能については、<基本操作ガイド>の「6.20 部品検索を行う」を参照してください。

部品検索の検索対象となる部品は単位ジョブ、ERPジョブ、BIジョブ、PCジョブ、UCXSingleジョブ、WOBSジョブ、カスタムジョブ、サブジョブネットワーク、ダイアログ部品、イベント送信部品、イベント受信部品です。

UCXSingleジョブのトラッカを検索する場合は、検索条件の指定の [ON] を選択し、[タイプ別検索] のUCXSingleジョブにチェック入れます。設定後、[検索] ボタンをクリックして検索を開始します。

部品検索画面

マシン名 参照

ユーザ名 参照

グループ名 参照

ジョブネットワーク名 参照

部品名 参照

検索条件の指定 ON OFF

アーカイブ済みの検索 する しない

ステータス検索

予定 実行中 終了済

異常 警告 停止

スキップ 保留 待合

タイプ別検索

単位ジョブ ERPジョブ BIジョブ

PCジョブ UCXSingleジョブ WOBSジョブ

サブジョブネットワーク ダイアログ部品

イベント送信部品 イベント受信部品

検索期間設定 1日間

表示時間形式

検索 キャンセル

図5.4 [部品検索画面] ウィンドウ画面例

5.3. UCXSingleジョブのデフォルトパラメータを設定する

メニューバーの [設定] - [パラメータの設定] から、各オブジェクトのパラメータのデフォルト値の定義およびJobCenter CL/Winが持っている出荷時の値（既定値）で、各部品のデフォルトパラメータの更新ができます。

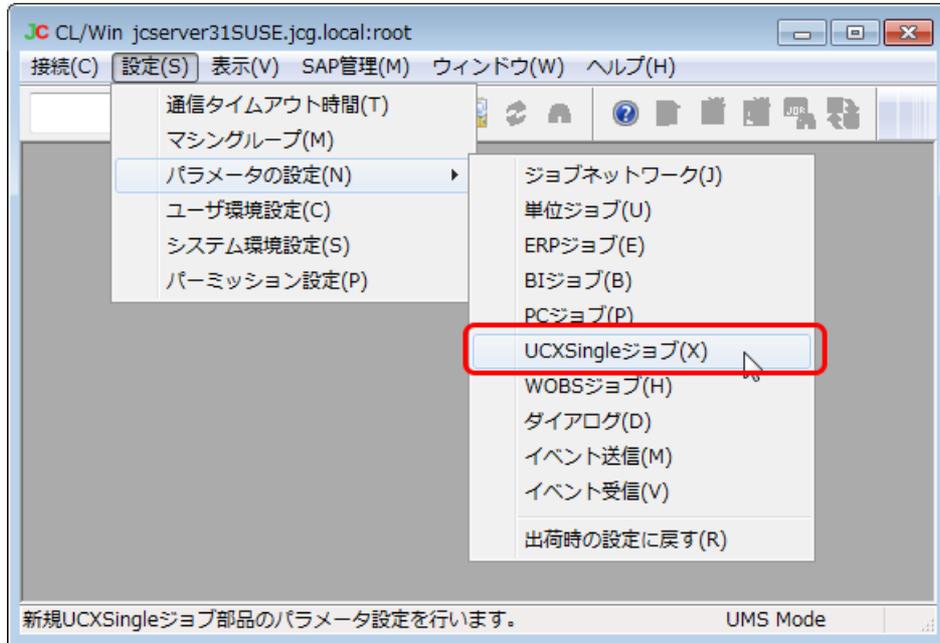


図5.5 [UCXSingleジョブのデフォルトパラメータ] のメニュー選択画面例

[UCXSingleジョブのデフォルトパラメータ] ダイアログで、UCXSingleジョブのパラメータデフォルト値を設定します。

UCXSingleジョブのパラメータ設定については、「[3.2 UCXSingleジョブの実行条件（パラメータ）を設定する](#)」を参照してください。



[UCXSingleジョブのデフォルトパラメータ] のダイアログでは、必須の設定項目はありません。実際にジョブネットワークフロー上にUCXSingleジョブを配置して設定を保存する際に、必須の設定項目がチェックされます。

5.4. エラー発生時のメール送信機能について

ジョブネットワークのパラメータを設定して実行されたジョブ/部品でエラーが発生したときに、指定された宛先にメールを送信してエラーを通知する機能があります。UCXSingleジョブでエラーが発生した場合について説明します。

エラー発生時のメール送信機能の詳細については、<基本操作ガイド>の13章 「エラー発生時のメール送信機能の設定方法」を参照してください。

5.4.1. 件名、本文に使用可能なマクロについて

UCXSingleジョブでエラーが発生した場合について、以下のマクロが利用可能です。

%jobname%	ジョブ名
%jobstarttime%	エラーの発生したジョブ部品の開始時刻
%jobendtime%	エラーの発生したジョブ部品の終了時刻
%exitcode%	エラーの発生したジョブの終了コード
%stdout%	標準出力
%stderr%	標準エラー出力



エラーの発生したUCXSingleジョブの終了コードのマクロの処理結果は1となります。ただし、「[5.1.1 UCXSingleジョブの後ろに条件分岐部品を配置する](#)」に説明されているようにUCXSingleジョブの後ろにある条件分岐はotherとして処理されます。



%stdout%、%stderr%は件名には使用できません。

第6章 UCXSingleジョブの注意事項・制限事項

6.1. 注意事項

- UCXSingleジョブの機能を使用する場合、JobCenter MG、UCXSingleジョブが実行されるJobCenter SV（構成によってはJobCenter MGと同一マシン）、および、JobCenter CL/WinをR12.8以降のバージョンにする必要があります。
- 帳票として作成したPDFファイルをUCXSingleジョブの設定によりダウンロードすることができます。この場合、PDFファイルがダウンロードされるホストは、UCXSingleのモジュールが配置されるホストになります。（「[1.2.2 システム構成](#)」参照）
- UCXSingleコマンドの実行環境をセットアップする場合は、「事前確認事項」を必ず確認してください。（「[2.1 UCXSingleコマンドの実行環境をセットアップする](#)」参照）
- UCXSingleジョブの名前を設定する際の注意事項は、単位ジョブと同じです。（「[2.3.1 UCXSingleジョブを作成する](#)」参照）
- UCXSingleジョブのパラメータの設定項目とUCXSingleコマンドオプションの対応、JobCenterがサポートしていないUCXSingleコマンドオプションの一覧については、「[3.1 UCXSingleコマンドオプションとの対応一覧](#)」を参照してください。
- UCXSingleジョブのパラメータの「処理後のデータファイルの扱い」の設定項目は、データファイル名を指定した場合に有効となります。（「[3.2 UCXSingleジョブの実行条件（パラメータ）を設定する](#)」参照）
- UCXSingleジョブのパラメータの「UCXサーバの処理結果を待つ」の設定項目について、設定をチェックなしとする場合は、UCXサーバへデータファイルの転送が必須です。[基本設定]タブで、データファイル名を設定してください。
- UCXSingleジョブトラッカウィンドウに表示されるUCXSingleジョブ詳細情報の「文書管理番号」について、取得をしない設定の場合、またはまだ処理結果を受け取っていない場合"- "を表示しますが、RDEに文書がスプールされない設定の環境についてもUCXSingleプロセスがUniversal Connect/Xから文書管理番号を受け取れないため"- "を表示します。（「[4.3 UCXSingleジョブトラッカウィンドウの詳細情報を参照する](#)」参照）
- UCXSingleジョブの後ろに条件分岐部品があるジョブネットワークで、UCXSingleジョブの実行が正常終了した場合、終了コードは0となります。UCXSingleジョブの実行が異常終了した場合やスキップされた場合、フロー処理はotherに進みます。（「[5.1.1 UCXSingleジョブの後ろに条件分岐部品を配置する](#)」参照）
- [UCXSingleジョブのデフォルトパラメータ] のダイアログでは、必須の設定項目はありません。実際にジョブネットワークフロー上にUCXSingleジョブを配置して設定を保存する際に必須の設定項目がチェックされます。（「[5.3 UCXSingleジョブのデフォルトパラメータを設定する](#)」参照）
- エラー発生時のメール送信機能について、エラーの発生したUCXSingleジョブの終了コードのマクロの処理結果は1となります。ただし、「[5.1.1 UCXSingleジョブの後ろに条件分岐部品を配置する](#)」に説明されているようにUCXSingleジョブの後ろにある条件分岐はotherとして処理されます。%stdout%、%stderr%は件名には使用できません。（「[5.4.1 件名、本文に使用可能なマクロについて](#)」参照）

6.2. 制限事項

- ジョブネットワークのパラメータで設定する [シミュレーション実行] を [ON] に設定しても UCXSingleジョブはフロー到達時に投入され、実際に処理されます。
- [ユーザフレーム] の [スケジュール表示] タブにUCXSingleジョブは表示されません。
- jnwsummaryコマンドではUCXSingleジョブに対する-cオプション、-pオプションの使用はサポートしていません。
- UCXSingleジョブが対応しているUCXSingleコマンドは、C版のみです。Java版には対応していません。（「[1.2.2 システム構成](#)」参照）
- UCXSingleコマンド（およびUCXSingleジョブ）にはUCXサーバの帳票出力の結果が正常か異常かを別途問い合わせる機能はありません。UCXサーバ側で帳票出力の処理を正常に完了し、UCXSingleコマンドが結果を受け取る前にサーバがダウンした場合、UCXSingleジョブのリスタートには帳票の二重出力の可能性があります。システム構築の際は上記を十分考慮の上、機能をご利用ください。（「[1.3 UCXSingleジョブの機能概要](#)」参照）
- JobCenterからUCXSingleジョブを投入する場合、UCXサーバ名(またはIPアドレス)の省略はできません。（省略によるlocalhostの暗黙の指定はできません。）（「[3.1 UCXSingleコマンドオプションとの対応一覧](#)」参照）
- UCXSingleジョブのパラメータの動作設定名は、半角英数字で、最大512文字以内で入力します。（「[3.2 UCXSingleジョブの実行条件（パラメータ）を設定する](#)」参照）
- UCXSingleジョブのパラメータのデータファイル名は、UCXSingleジョブを実行するJobCenter上のファイル名を絶対パス表記、512文字以内で入力します。2バイト文字は設定できません。本設定項目を設定しない場合は、帳票サーバ上にデータファイルが配置される構成である必要があります。（「[3.2 UCXSingleジョブの実行条件（パラメータ）を設定する](#)」参照）

第7章 UCXSingleジョブのトラブルシューティング

UCXSingleジョブに関するトラブルシューティングを説明します。

7.1. トラブルシューティングQ&A

Q.1	<p>UCXSingleジョブトラッカがERRORもしくはABORT状態で終了した。</p> <p>UCXSingleジョブトラッカの [詳細情報] タブの [終了理由] に -XXXX メッセージ の形式で情報が表示される。また、 [UCX戻り値] に -XXXX が表示される。</p>  <p>-XXXXは4桁の負数です。</p>
A.1	<p>この現象が発生した場合は、UCXSingleもしくはUniversal Connect/X側でエラー番号に該当するエラーが発生しております。</p> <p>Universal Connect/Xのマニュアルのエラーコード表の原因と対処方法を確認して対処を行ってください。</p> <p>詳細は、Universal Connect/X製品のサポート窓口にお問い合わせください。</p> <p>なお、ジョブネットワークトラッカの [ログ] タブの「ucxs args:」というエントリで、UCXSingleコマンド実行時のオプションをJobCenterが列挙して出力している場合があります。</p> <p>設定ミスの参考事例（事例であり原因が他に存在する可能性があります。詳細な調査は、Universal Connect/X製品のサポート窓口に依頼してください。）</p> <p>-4104 指定の設定名が見つかりません</p> <p>UCXSingleジョブのパラメータの [基本設定] タブの [動作設定名] に記述したJOBIDがUniversal Connect/Xサーバ上に存在しない可能性があります。</p> <p>-4212 ERR_INVALID_HOST 接続先ホストが正しくありません</p> <p>UCXSingleジョブのパラメータの [基本設定] タブの [UCXサーバ名（またはIPアドレス）] に設定した値が間違っている、もしくは、名前解決ができていない可能性があります。また、Universal Connect/XサーバのSVF Java PRODUCT WEB Server Serviceが起動していない可能性があります。</p> <p>-4205 ERR_TCP_TIMEOUT 通信タイムアウトしました</p> <p>UCXSingleジョブのパラメータに設定されているポート番号が44080以外に設定されている可能性、また、Universal Connect/Xが無応答状態となっている可能性があります。</p> <p>-4026 印刷様式中のフィールド名と一致する項目が見つかりませんでした</p> <p>UTF8以外の様式にもかかわらず、UCXSingleジョブのパラメータの [データファイル詳細] タブの [データファイル種別] でUTF8を指定している可能性があります。</p> <p>-4971 JavaVM 内に不正な処理がありました</p> <p>データファイルのコーディングがms932にもかかわらず、UCXSingleジョブのパラメータの [データファイル詳細] タブの [エンコーディング名] にunicodeを指定するなどエンコーディング名の指定を間違えている可能性があります。</p> <p>-4207 ERR_FILE_CANT_CREATE ファイルの作成ができませんでした</p> <p>UCXSingleジョブのパラメータの [結果] タブで出力ファイルをUCXクライアントにダウンロードする設定でジョブを実行したが、実行ユーザにダウンロードパスとなるディレクトリの書き込み権限がない可能性があります。</p>

	<p>-4211 ERR_FILE_CANT_READ ファイルの読み込みができませんでした</p> <p>UCXSingleジョブのパラメータの [基本設定] タブに設定されているデータファイルが存在しているが、実行ユーザに読み込み権限がない可能性があります。</p>
Q.2	<p>UCXSingleジョブトラッカがERRORもしくはABORT状態で終了した。</p> <p>UCXSingleジョブトラッカの [詳細情報] タブの [終了理由] に UCX、またはUCXSingleでエラーです。</p> <p>と表示される。また、 [UCX戻り値] に負の数が表示される。</p>
A.2	<p>この現象が発生した場合は、UCXSingleもしくはUniversal Connect/X側でエラーコード表に記載のないエラー番号に該当するエラーが発生しております。</p> <p>詳細は、Universal Connect/X製品のサポート窓口にお問い合わせください。</p> <p>なお、ジョブネットワークトラッカの [ログ] タブの ucxs args: というエントリで、UCXSingleコマンド実行時のオプションをJobCenterが列挙して出力している場合があります。</p>
Q.3	<p>UCXSingleジョブトラッカがERRORもしくはABORT状態で終了した。</p> <p>UCXSingleジョブトラッカの [詳細情報] タブの [終了理由] に 不明、または内部エラーです。</p> <p>と表示される。また、 [UCX戻り値] に値が表示されていない。</p> <p>UCXSingleジョブトラッカの [エラー出力結果] タブに</p> <p>Unable to execute UCXSingle job without ucxsconf.f file.</p> <p>と表示される。</p>
A.3	<p>この現象が発生した場合は、JobCenter MGの/usr/lib/nqs/ucxs(Windows版 JobCenterの場合は%InstallDirectory%\etc)ディレクトリ配下のucxsconf.fの設定ファイルが読み込まれずにJobCenter MGが起動している可能性があります。</p> <p>ucxsconf.fの設定ファイルが存在しない場合は作成して設定を記述し、JobCenter MGを再起動してください。ucxsconf.fの設定ファイルが存在する場合はファイルのパーミッションを確認した上でJobCenter MGを再起動して設定を読み込ませてください。クラスタ環境の場合は、運用系、待機系の両マシンにucxsconf.fが存在する必要があります。</p>
Q.4	<p>UCXSingleジョブトラッカがERRORもしくはABORT状態で終了した。</p> <p>UCXSingleジョブトラッカの [詳細情報] タブの [終了理由] に 不明、または内部エラーです。</p> <p>と表示される。また、 [UCX戻り値] に値が表示されていない。</p> <p>UCXSingleジョブトラッカの [エラー出力結果] タブに</p> <p>Unable to execute UCXSingle job without ucxsingle command.</p> <p>と表示される。</p>
A.4	<p>この現象が発生した場合は、JobCenter MGの/usr/lib/nqs/ucxsディレクトリ(Windows版JobCenterの場合は%InstallDirectory%\etc)配下にあるucxsconf.fの設</p>

	<p>定ファイルに記述されたUCXSingleコマンドの絶対パスに、UCXSingleのコマンドモジュールが存在していません。UCXSingleのコマンドモジュールを配置してください。</p> <p>クラスタ環境の場合は、運用系、待機系の両マシンで、それぞれのucxsconf.fの設定ファイルの記述とUCXSingleのコマンドモジュールの状況を確認してください。</p>
Q.5	<p>UCXSingleジョブトラッカがERRORもしくははABORT状態で終了した。</p> <p>UCXSingleジョブトラッカの [詳細情報] タブの [終了理由] に不明、または内部エラーです。</p> <p>と表示される。また、 [UCX戻り値] に値が表示されていない。</p> <p>UCXSingleジョブトラッカの [エラー出力結果] タブに</p> <pre>jnwengine: Unable to execute command:<コマンドの絶対パス> (Permission denied)</pre> <p>と表示される。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p><コマンドの絶対パス>はucxsconf.fに設定された文字列です。</p> </div> </div>
A.5	<p>この現象が発生した場合は、 <コマンドの絶対パス> で指定されたUCXSingleコマンドのモジュールに実行権が付与されていません。実行権を付与してください。</p>
Q.6	<p>UCXSingleジョブのパラメータの [基本設定] タブで、出力ファイルをUCXクライアントにダウンロードする設定を行ってジョブを実行したが、ダウンロードされたファイルのファイルサイズが0であった。</p>
A.6	<p>Universal Connect/Xサーバの動作設定アプレットで、当該JOBIDの処理の出力先がPDFではなく、RDSpoolの設定となっているため、ファイルサイズ0のファイルがダウンロードされた可能性があります。</p>

